
第9回、在日朝鮮人史研究・日韓合同研究会

<資料集>

- 1 日時：2022年8月13日（土）、午後1時～5時
会場：ZOOM

- 2 プログラム（研究発表、ZOOM 交流会ほか）

研究発表

- 1) 「アジア太平洋戦争期の仁川陸軍造兵廠について」
許光茂（韓日民族問題学会） 2頁
- 2) 「ウトロ平和祈念館の展示について」
金秀煥（ウトロ平和祈念館副館長） 25頁
- 3) 「『在日朝鮮人団体事典 1895～1945』刊行の経過と概要」
野木香里（韓国民族問題研究所） 31頁
- 4) 「『新潟事件』（1922年）をめぐる朝鮮人共産主義グループの動向」
李豊海（関東部会） 42頁

- 3 主催

在日朝鮮人史運動史研究会関東部会 代表・樋口雄一
在日朝鮮人史運動史研究会関西部会 代表・飛田雄一
韓日民族問題学会 会長・許光茂

アジア太平洋戦争期の 仁川陸軍造兵廠について

仁川陸軍造兵廠・平壤製造所・地下工場

仁川陸軍造兵廠とは？

造兵廠(Arsenal)とは？

- 旧日本陸海軍の兵器・弾薬・車輛・船舶等の購入・設計・製造・修理を担当した日本軍直属の工場と機関
- 陸軍は**陸軍造兵廠**といい、海軍は**海軍工廠**と呼ぶ。

陸軍造兵廠の設置状況

▶ 陸軍造兵廠

・東京第一陸軍造兵廠
大宮製造所・仙台製造廠等

・東京第二陸軍造兵廠
多摩製造所・板橋製造所等

・相模陸軍造兵廠
第一製造所・第二製造所

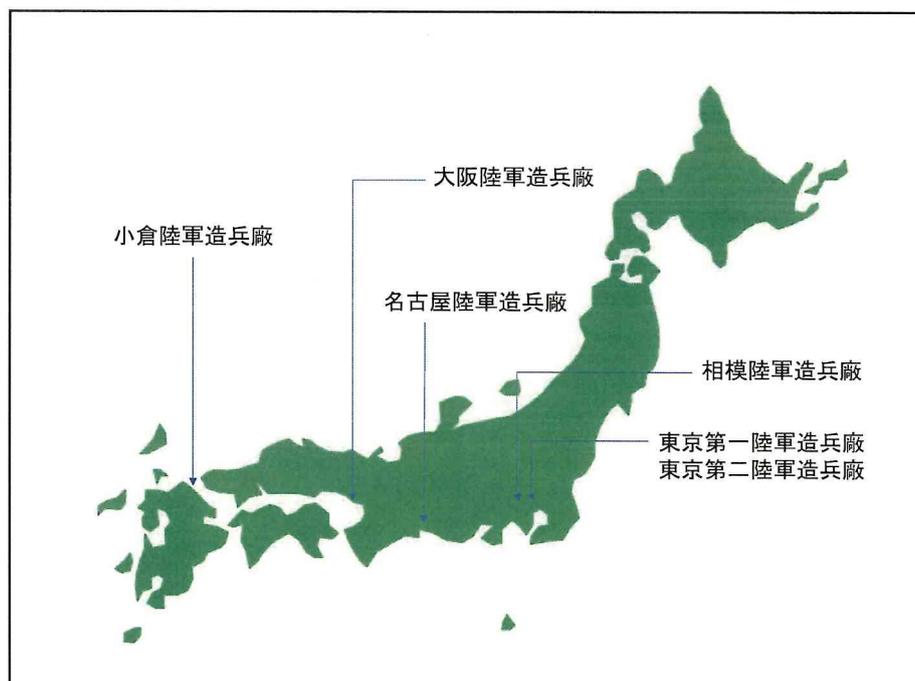
・名古屋陸軍造兵廠
熱田製造所・鳥居松製造所等

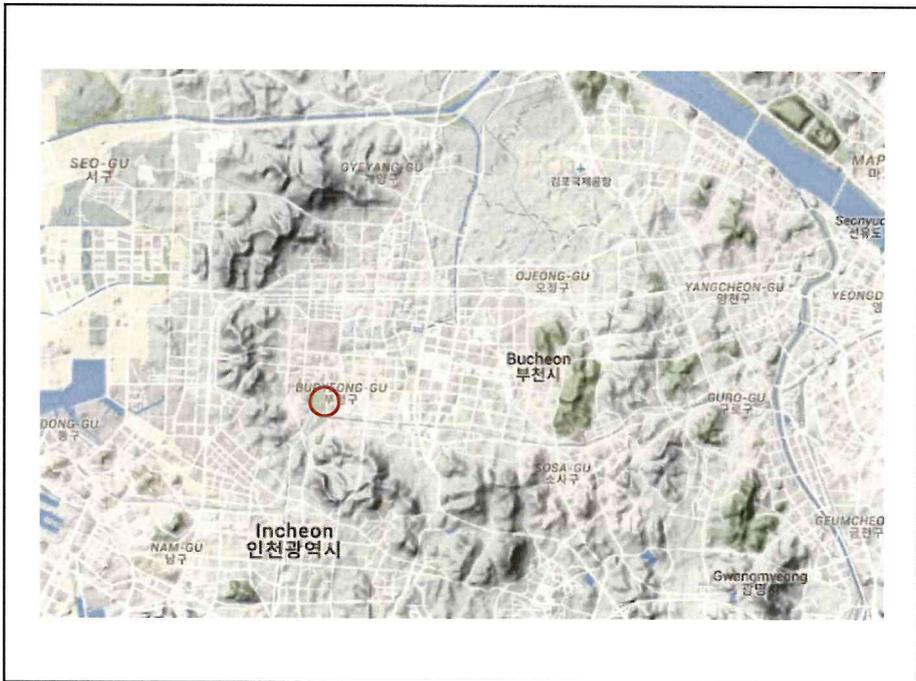
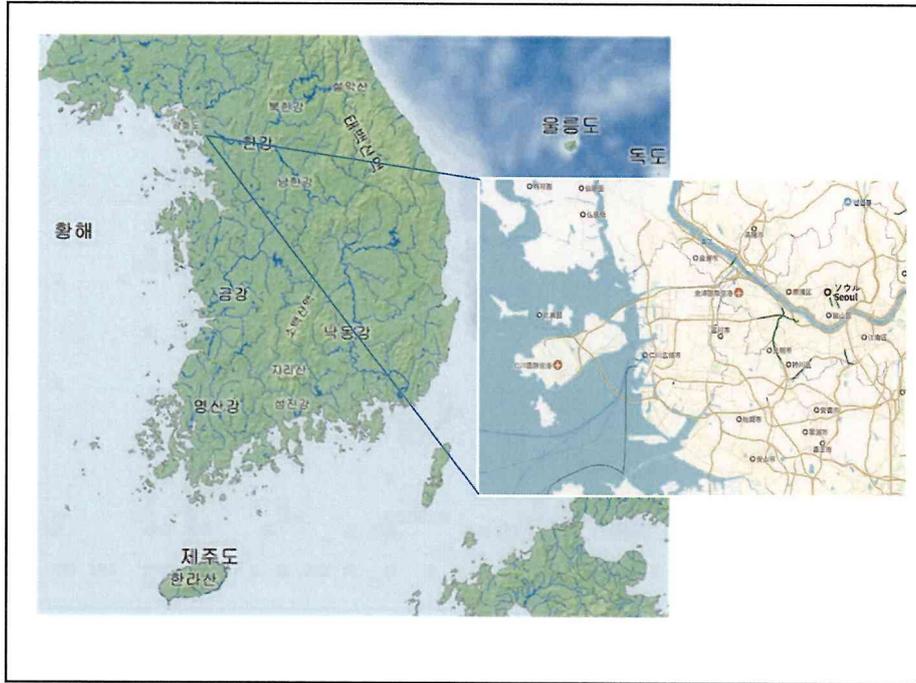
・大阪陸軍造兵廠
白浜製造所・播磨製造所等

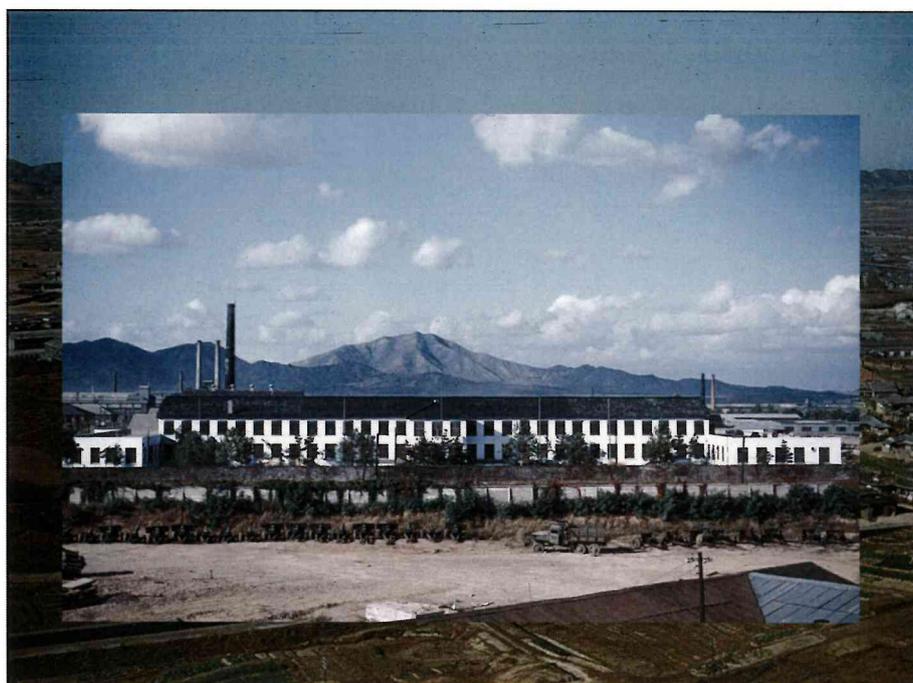
・小倉陸軍製造所
春日製造所・糸口山製造所等

・南滿陸軍製造廠
第一製造所・第二製造所等

・仁川陸軍造兵廠
第一製造所・平壤製造所







仁川陸軍造兵廠はなぜ、いつ出来たか？

目的: ①満州や中国北部への迅速且つ安全な輸送 ②朝鮮の兵器工業能力の飛躍的発展

(「朝鮮に於ける製造所増設の解説概要」1939年8月10日)

開廠: 1941年5月5日

朝鮮に於ける製造所増設の説明概要	兵器局
満洲北へ輸送ノ迅速安全並ニ朝鮮に於ける兵器工業能力ノ飛躍的発展ヲ期スル為京畿道傍ニ銃剣生産ノ主任務トスル一製造所ヲ設置ス	
本製造所へ取敢て小倉工廠長ヲ移下ニ置クニ昭和十五年夏に於て平壤兵器製造所ト夫ニ對シ設立ヲ命ジ朝鮮工廠一屬セル	
一 設備能力	
一 製造所ノ設備目標次如シ	
小銃	月製 二萬挺
輕機関銃	百挺
重機関銃	百挺
銃剣	月製 二萬挺
軍刀	月製 一千振

仁川陸軍造兵廠の構成と主な任務

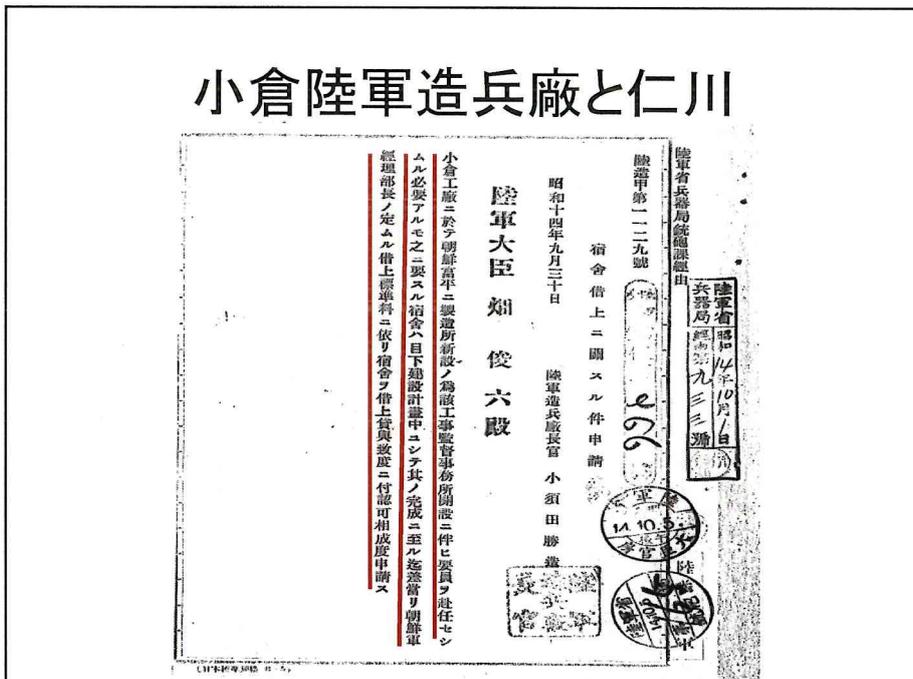
❖ 構成

本部 + 第一製造所(仁川、富平) + 平壤製造所(平壤)

❖ 任務 : 小銃(99式)と銃剣などの製造(1945年以降、実包も生産)

種類	期間	目標
小銃	月製	2万挺
輕機関銃	月製	百挺
重機関銃	月製	百挺
銃剣	月製	2万挺
軍刀	月製	1千振

1939年当時の目標



富平事務所編成要目並同着任区分

区分	所長	高層官	副長官	主任	事務員	計	平均	在費
第一区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
第二区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
第三区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
第四区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
第五区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
第六区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
第七区	1	1	1	1	1	5	1.0	5000
計	7	7	7	7	7	35	1.0	175000

備考
 一、主任官は、主任官に兼任する。
 二、主任官は、主任官に兼任する。
 三、主任官は、主任官に兼任する。
 昭和十一年一月十日
 富平事務所長 田中 一

敗戦後における造兵廠

ASCOM CITY (Scale 1:14,125)

ASCOM (Army Service Command、米軍軍需支援司令部) 7つのキャンプからなる。

美軍基地返還

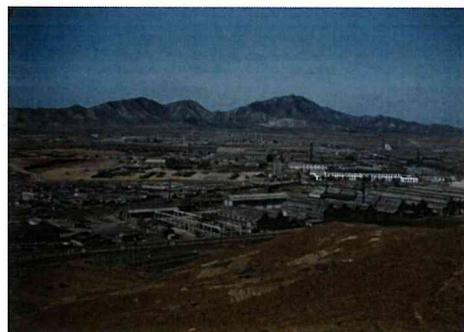
禁断の地になってから約80余年を経て市民の手に渡される。

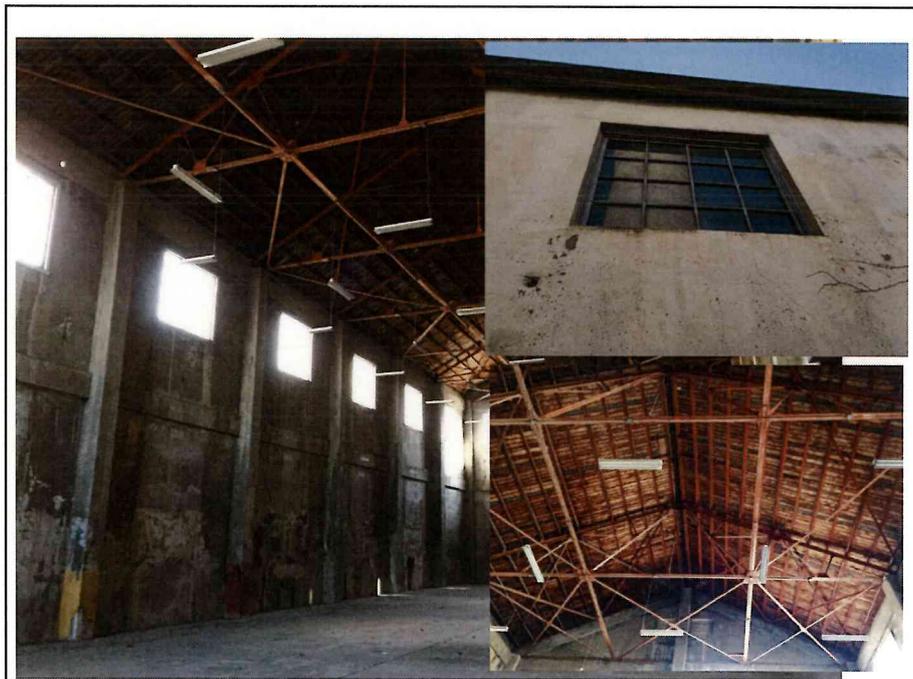


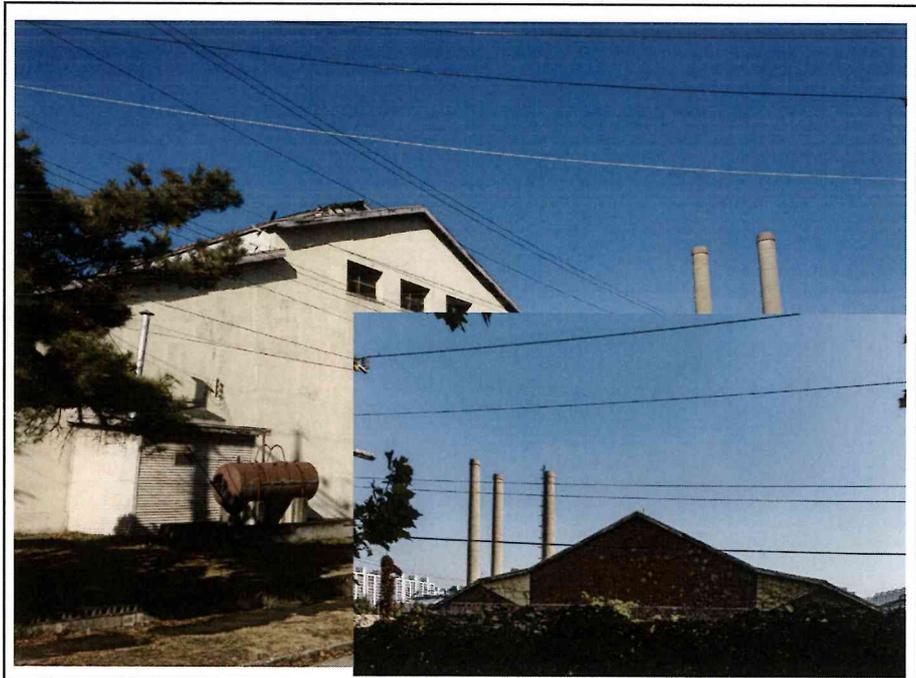
米軍基地という布をはぎ取ると 造兵廠が現れる

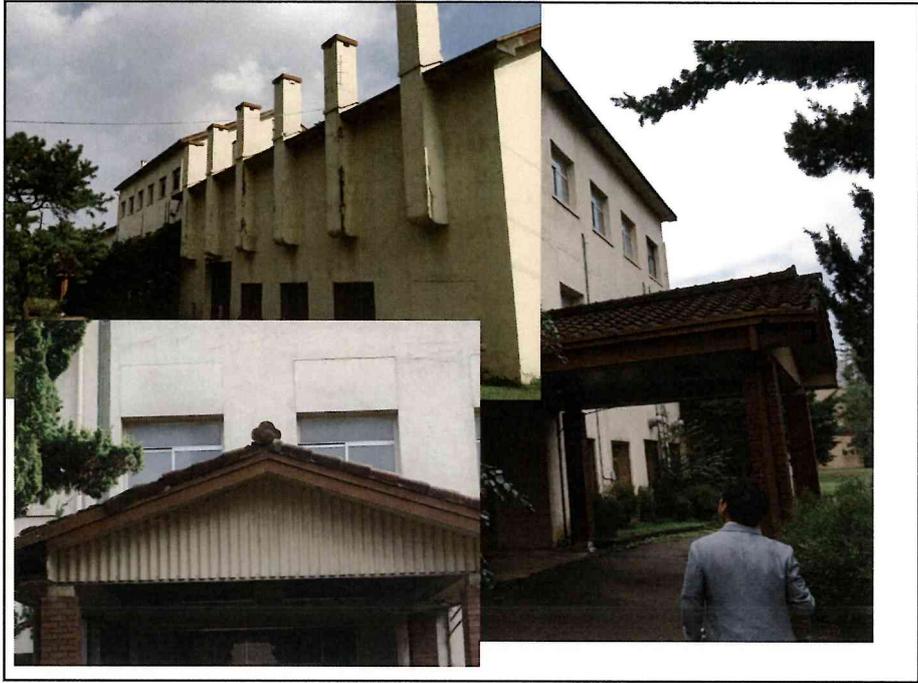
次の様な工場が見られる

- * 銃床工場
- * 研磨工場
- * 板金工場
- * 組立工場











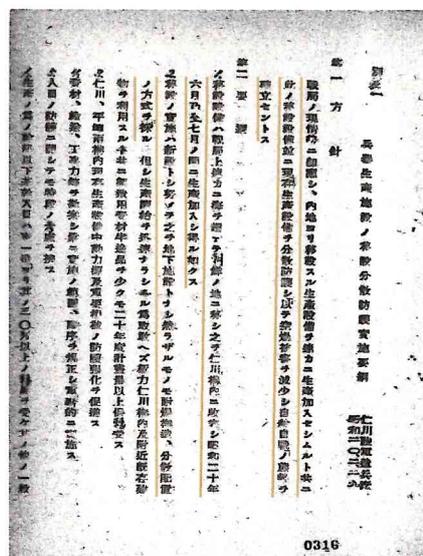
第2製造所の建設始まる

* 戦局の現情勢に即応し、内地より移設する生産設備を迅速に生産加入せしむると共に此の移設設備並に現存生産設備を分散防護し以て空爆被害を減少し自給自戦の態勢を確立せんとす。

* 移設設備は戦局上速かに海を越え朝鮮の地に移し之を仁川構内に收容し昭和20年6月乃至7月の間に生産加入し得る如くす。

* 移設の実施は新設とし努めて之を地下施設となし然らざるものも耐爆構造、分散配置の方式を採る。

仁川陸軍造兵廠 1945年2月29日
「兵器生産施設ノ移設分散防護実施要綱」より



0316

内地より移設する生産設備とは「東一造」の実包設備の一部

東一造より「実包(鉄薬莖)月産150万発分の設備を仁川に移設(昭二〇、二、二四 兵政造密第八二四号に依る)」

「陸軍兵器行政本部長隷下部隊長会同状況報告」1945年3月13日

「大陸自給自戦態勢確立の為実包月産150万発生産設備を東一造より仁川に移設の命を受け」

「実包設備は之を地上地下に分散收容する計画」

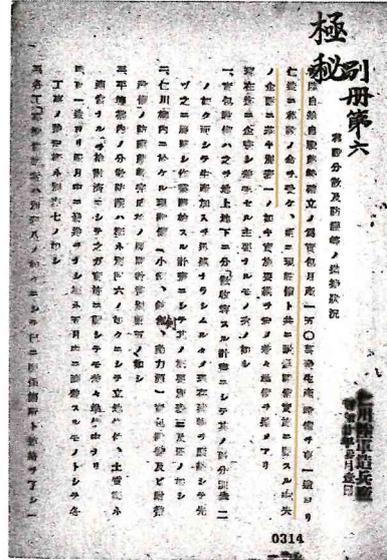
「地下設備は隧道式を本則とす」

「第二製造所(実包製造所の仮名)」

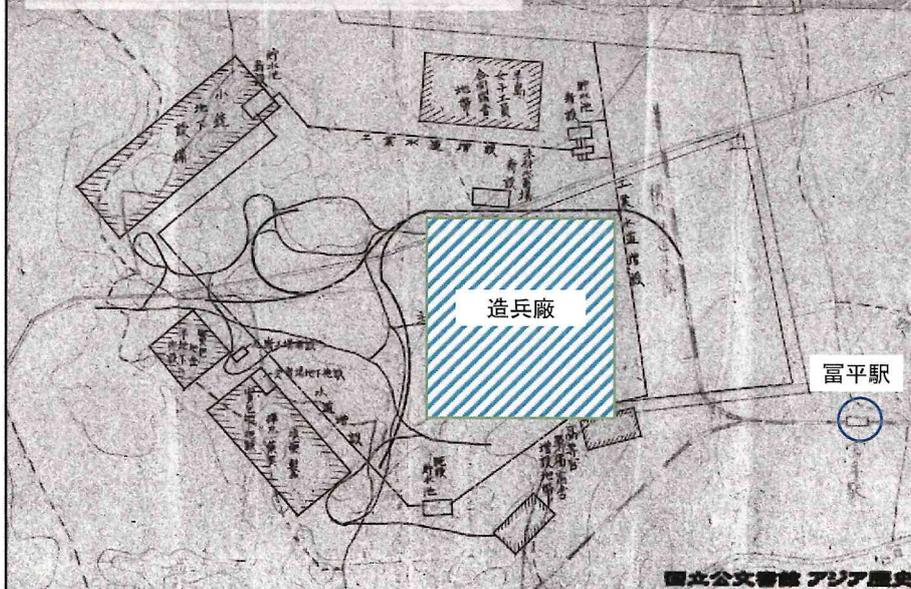
「工事労務者は一般徴用及報国隊に依る」3,500名

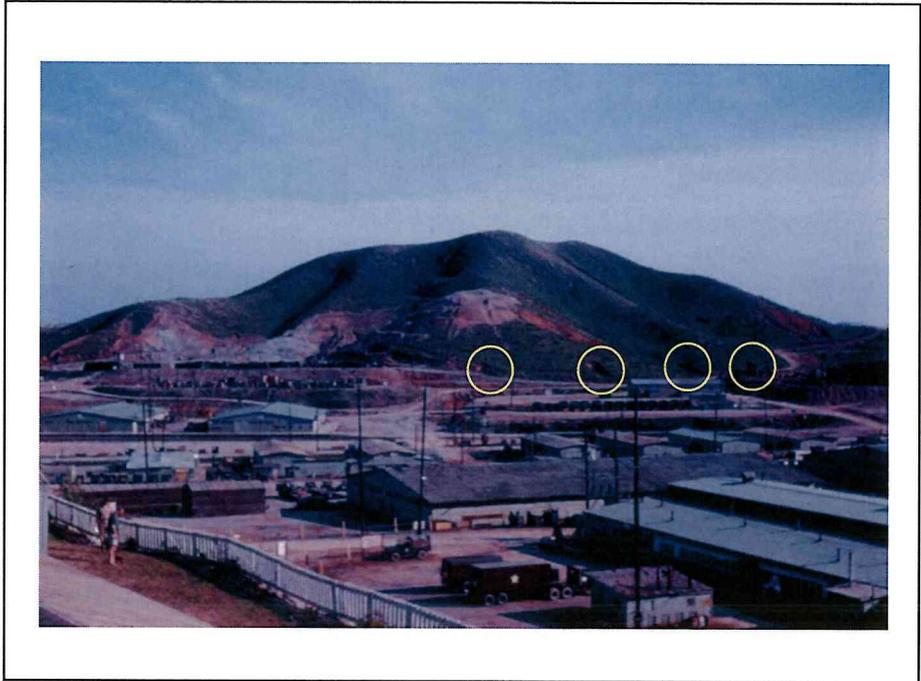
「移設設備等の輸送経路は東京一神戸一釜山一仁川とし」

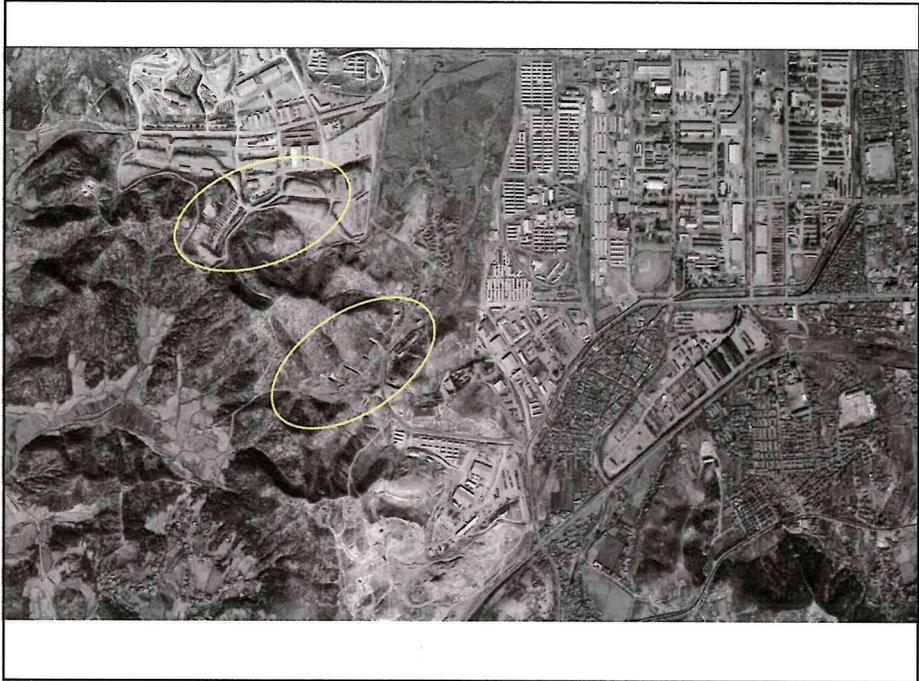
「移設分散及び防護等の進捗状況」仁川陸軍造兵廠、1945.3.1.



실포소송이철분산방호전개도(實包小銃移設分散防護展開圖, 1945.3.)

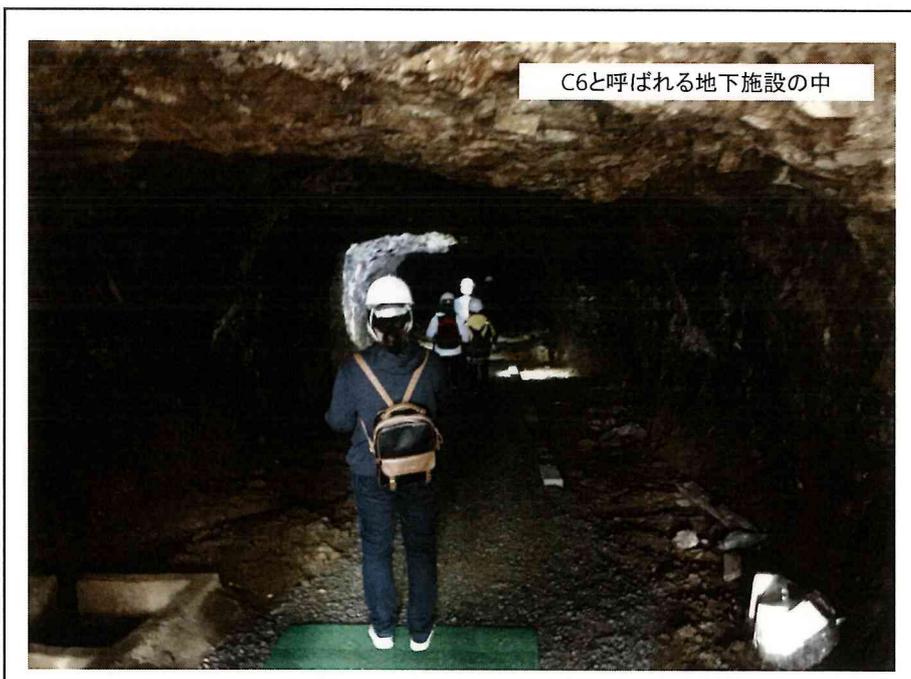






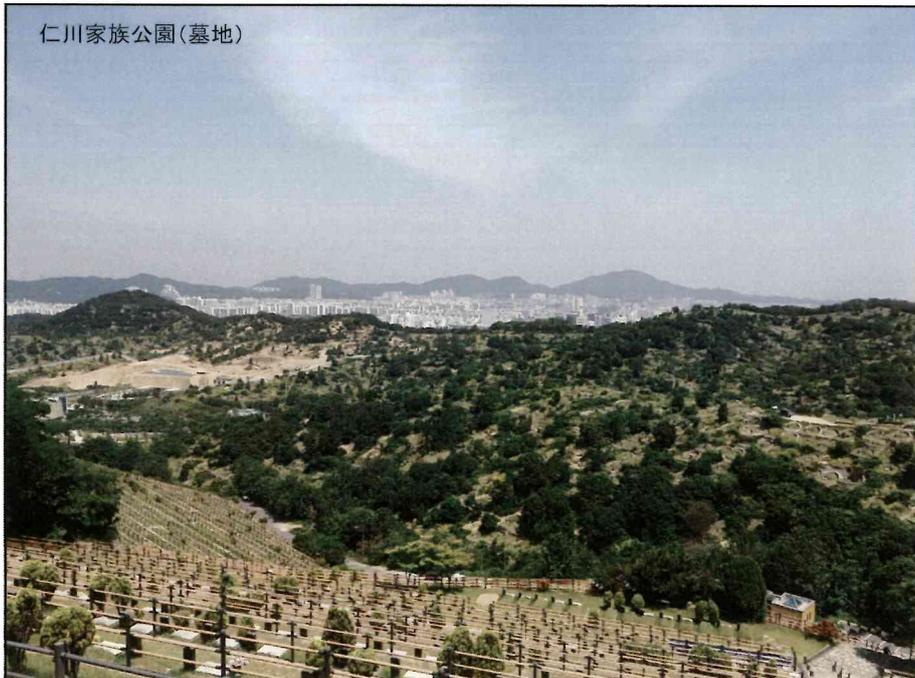


月一回の地下施設フィールドワークの様子



C6と呼ばれる地下施設の中







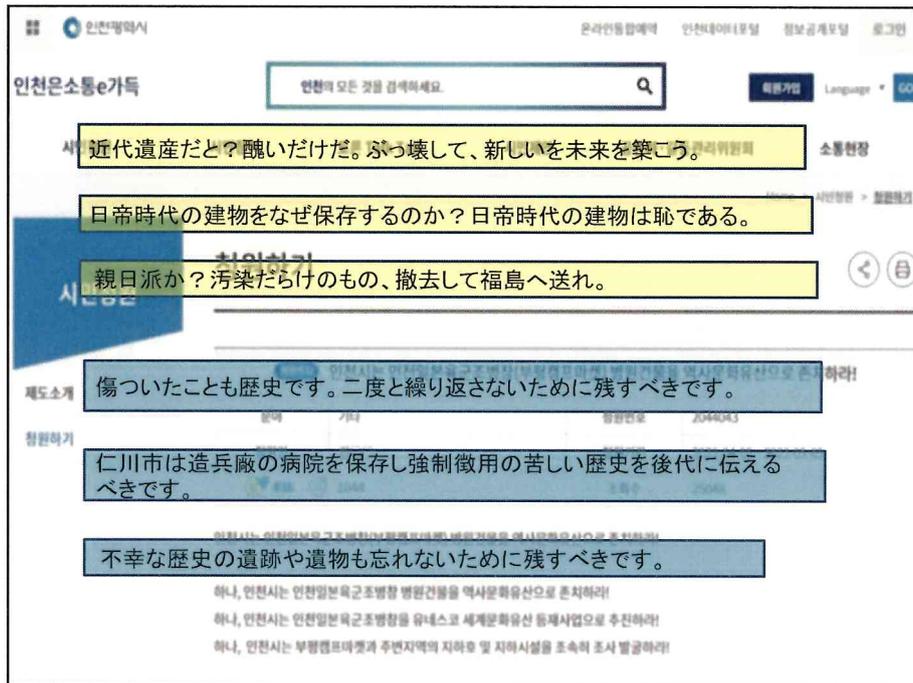
仁川陸軍造兵廠の重要性

- ❖ 形の整ったほぼ唯一の造兵廠
- ❖ 施設(空間) + 物(遺物) + 史料 + 体験者 (証言) が出そろった稀なケース
- ❖ 朝鮮半島の「大陸兵站基地」化のシンボリック空間





「仁川+연합농노」 활동가 기자 + 공업학교와 같은 대우를 받을 수 있다고 해서, 한 줄고 공부할 수 있다고 했다.



保存と開発

- 保存
 - 近代遺産として注目
 - 観光資源としての魅力
 - 歴史教育の現場
- 開発
 - 嫌な思い、負の遺産、異質な風景
 - 日帝時代の残りで嫌な思いがする
 - 日本の建物を我々が保存するのは可笑的
 - ハンオク(韓屋)ではないので似合わない

撤去 = 開発の黒幕とは？



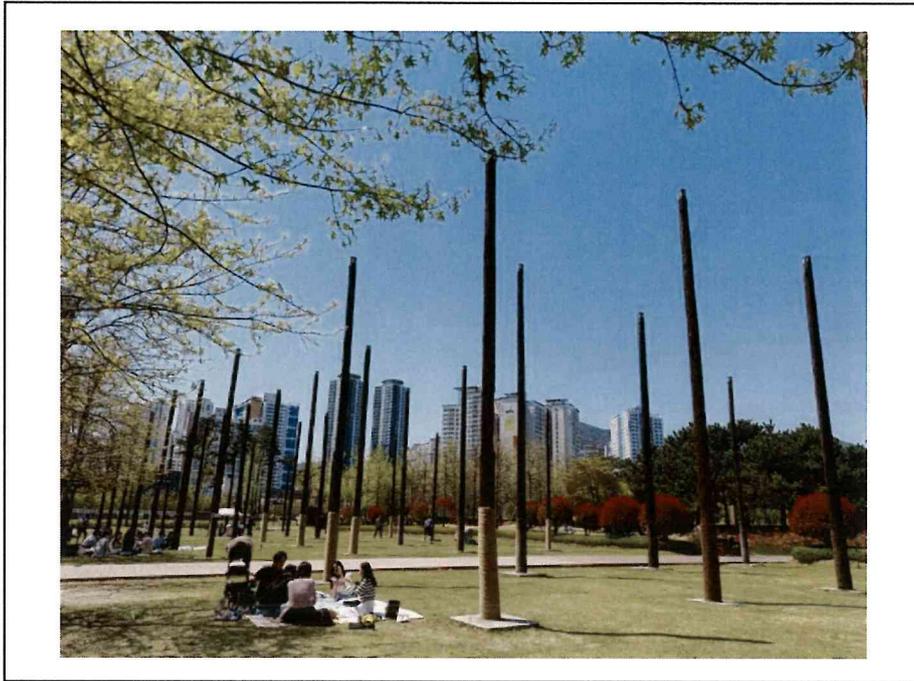
国民の関心高まる



釜山のキャンプ・ハヤリアの場合

- 元は日帝(植民地)時代の競馬場
- アジア太平洋戦争期には朝鮮軍の訓練所
- 敗戦後、米軍が接收
- 338棟に至るクオンセット兵舎が並ぶ
- 今は全て撤去し芝生と並木の公園に
- 撤去の理由は汚染浄化。
 - ☞しかし2メートルほどの土を被せただけ
- 2014年に市民に開放
- 空間のもつ歴史的意義など、まったく伝わらない





ウトロ平和祈念館の展示について

第9回在日朝鮮人史研究・日韓合同研究会
金秀煥（ウトロ平和祈念館副館長）

○ウトロ平和祈念館について

2022年4月30日オープン

運営主体:一般財団法人ウトロ民間基金財団

（現況/8月7日現在）

来館者数:4,378名（内団体研修42件/648名）

アンケート:1,304枚（回収率30%）

サポーター:約700名

ボランティア:約80名

○ウトロ平和祈念館の展示について

（常設展示/2021年4月30日より制作）

1. 戦争と植民地支配を背景に生まれたウトロ地区
 - 1-1 日本への渡航と移住
 - 1-2 ウトロ集落の形成
2. 戦後のウトロ地区での生活～差別と貧困の中で
 - 2-1 飛行場建設の中断と米軍の接収
 - 2-2 ウトロ地区での民族教育
 - 2-3 戦後の人々と生活
 - 2-4 劣悪な生活環境、立ち退き問題
3. ウトロを守るたたかい～地元支援と国際連帯
 - 3-1 司法による土地の明け渡し命令
 - 3-2 ウトロを支え続けた日本人支援者
 - 3-3 韓国市民社会の合流
4. 新しいまちづくりとウトロ平和祈念館
 - 4-1 ウトロ地区新しいまちづくり
 - 4-2 出会いと学びの場へ
 - 4-3 ウトロ平和祈念館建設と「小さな統一」

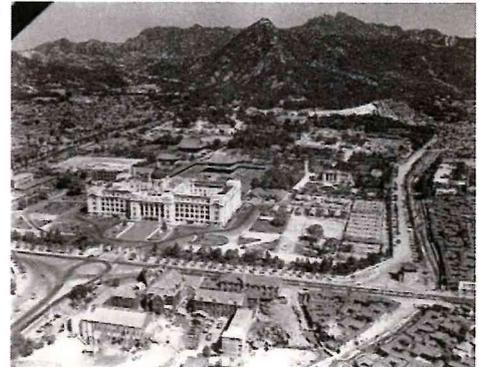
○ウトロ地区の歴史を「展示」するにあたっての課題

1. ウトロ地区の成り立ち～強制連行と出稼ぎ労働者

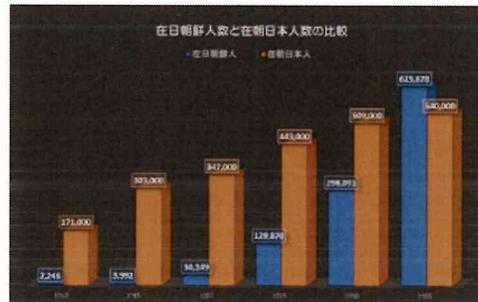
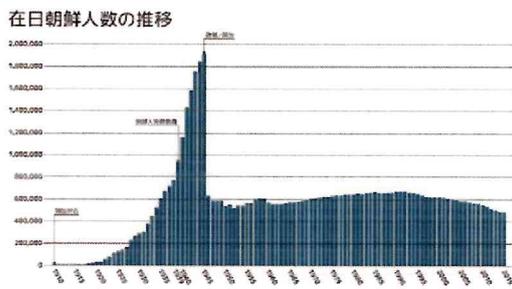
- ・ 京都飛行場建設労働者が「無理やり連れてこられた」「強制的に働かされた」
- ・ 強制連行でなければ、お金儲けのための自由意思による出稼ぎ労働者なのか？
- ・ 昨今の植民地支配否定論



〔内閣〕拓殖局『植民地要覧』(1920年)



- ・ 強制連行以前の朝鮮人の渡日、植民地支配構造との関連



「産米増殖計画」の本質 (数値は各年代別の年平均)

年代	朝鮮の米生産高	対日輸出高	朝鮮人1人当り米消費高	同指数	日本人1人当り米消費高	同指数
1915～19	1398 万石	193 万石	0.71 石	100	1.12 石	100
20～24	1442	330	0.64	90	1.13	101
25～29	1482	585	0.51	72	1.12	100
30～36	1684	816	0.43	60	1.08	96

梶村秀樹「朝鮮史その発展」2007より

- ・ 住民たちの証言～金貸し、金融組合

向こうでは百姓は、人の田んぼ作って、年貢（小作料）出して、残りで生活していくのに、一つも残らんとときがあった。信用（金融）組合をこさえて、田んぼを預けたら金を貸してあげるから、これを信用受けして商売したら、おまえら楽になると思うんだと。結局商売がうまくいってない、どこの人も。それでつまりは全部が信用

組合の担保になっていた。その当時は韓国、朝鮮の国を日本人は8割ほど自分の物にしていた。

(金壬生談 1912年生)

田畑を続けるにも肥料を買うお金が無くて困っていると、日本人の金貸し業者が朝鮮人に金を貸し付け、その利息も払わされる。結局日本人は、朝鮮人の田畑を買い上げて、小作をさせて、借金もさせて、その借金の保証人には朝鮮人をたてさせるので、何人もの保証人になって家をつぶした朝鮮人も多い。日本人は何も損しない。朝鮮人に対してひどい商売をしていた。金の返却は年を越しては許されなかったから、親戚や知人から金をかき集めては返していた。何年かそんなことをしても、結局友人や知人への借金が返せず、夜逃げした人も多い。

本当に貧しい生活。朝鮮人の暮らしは、日本人の家に居る犬よりももっとひどかった。

(崔仲圭談 1916年1月23日生)

2. 戦後の生活～地元紙の活用、当時の活動家の写真

- ・ウトロ地区の国語講習所、朝連久世初等学院





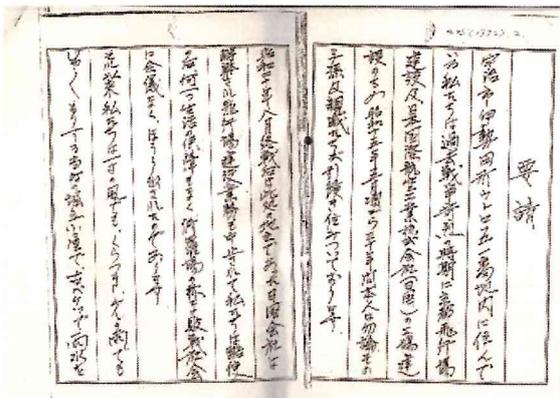
○南淙佑（1927～1956）

慶尚南道柳谷生まれ。渡日時期不明。ウトロにて民族運動に従事。当時としては珍しくカメラを愛用し、同地区の貴重な過去の写真をたくさん残している。

- ・ 『チャンゴの聞こえる町 ウトロ、この土地に生きる』（未刊行）
- ・ 京都府宇治市の地域新聞『洛南タイムス』における在日及び圏内在日集住地区・ウトロに関する記事一覧（1946～2010年）全 ウンフィ, 2015
- ・ ウトロニュース（1989年～46号）

3. ウトロの土地の転売過程～極めて複雑な経過の展示

- ・ 説明が多いからと言って分かりやすいのではない、伝えたいこと
- ・ 立ち退き裁判の結果と、そのいびつな構造を展示



4. ウトロを取り続けたカメラマン

- ・ 小川省平さん～ウトロを守る会。1989年からウトロを撮影。
- ・ 中山和弘さん～プロカメラマン。元毎日新聞。1990年～
- ・ イムジェヒョンさん～韓国プロカメラマン、2004年～

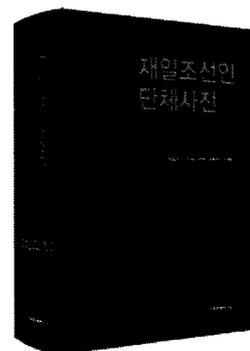
『在日朝鮮人団体事典 1895～1945』刊行の経過と概要

民族問題研究所
野木香里

1. 刊行の経過

- 2007年、民族問題研究所、韓国研究財団の研究プロジェクト公募事業に「日帝強占期在日朝鮮人団体事典」事業(2年)を申請、採択
 - ※ 東アジアにおける歴史叙述の問題と関連、韓日連帯運動の一環、韓日共同作業の第一歩
 - ※ 2001年、「新しい歴史教科書をつくる会」発行の教科書の検定通過など日本における歴史歪曲の動きに対し、韓日市民がどのように対応していくべきか、模索開始
- 2009年、韓国研究財団に「日帝強占期在日朝鮮人団体事典」事業報告書を提出
- 2011年8月、事業報告書を補完し、『日帝強占期在日朝鮮人団体便覧』(以下、『便覧』)発刊
 - ※ 韓日共同研究、執筆者14名、約460団体収録
 - ※ 『便覧』を全面的に改訂し、民族問題研究所独自の事業、「親日問題研究叢書 機構・団体編」編纂事業の一環として、事業拡大を決定、韓国語版・日本語版の同時刊行を目標
- 2012年3月、韓日共同研究として本格的に事業を企画、項目(収録団体)選定、執筆依頼開始
- 2012年7月～2016年12月、原稿執筆(第1次)、下翻訳、資料調査・整理
- 2017年1月～2019年12月、原稿執筆(第2次、編纂チーム)、翻訳、資料調査
 - ※ 韓国史教科書国定化反対運動、『日帝植民統治機構事典—統監府・朝鮮総督府編—』編纂事業、植民地歴史博物館設立運動および開館など、他の研究プロジェクト・運動との調整の問題、責任者・実務担当者の交代などにより遅延
- 2019年12月19日、韓日共同編纂委員長と編纂チームが民族問題研究所に集い、韓日共同編纂委員会第1回会議を開催
 - ※ 韓国語版をまず刊行すること、未収録団体の一覧表を付録として入れることなど決定
- 2020年1月～2020年8月、原稿執筆・修正(編纂チーム)、翻訳、校正、付録基礎作業
- 2020年8月31日、韓日共同編纂委員会第2回会議(オンライン)開催
- 2020年9月～2021年5月、原稿修正(編纂チーム)、校正、付録基礎作業
- 2021年6月10日、韓日共同編纂委員会第3回会議(オンライン)開催
- 2021年6月～2021年11月、校正・校閲、監修、付録作成、索引、デザイン
- 2021年12月14日、韓日共同編纂委員会第4回会議(オンライン)開催
- 2021年12月31日(著作権)、2022年2月17日(印刷物到着)、『在日朝鮮人団体事典 1895～1945』(1,246頁、130,000ウォン)刊行

* 韓日市民による協力・共同作業、執筆者と編纂チームの意思疎通重要



2. 事典の概要

(1) 収録団体

- 『在日朝鮮人団体事典 1895～1845』(以下『事典』)には計551の在日朝鮮人団体を収録
- 日帝時期(1910年8月～1945年8月)を中心とし、一部、大韓帝国期を含み、解放以降も活動が続いた場合は簡略な説明を追加

『在日朝鮮人団体事典 1895～1945』は、植民地期に日本で設立された551の朝鮮人団体の沿革と活動を収録した大作である。民族問題研究所としては、2004年の『日帝協力団体事典—国内中央編—』、2009年の『親日人名事典』、2017年の『日帝植民統治機構事典—統監府・朝鮮総督府編—』に続き、4番目に出した日帝時期関連専門分野事典である。(中略)

収録された在日朝鮮人団体の性格は実に多様だ。大きくは、日帝に協力したかどうかによって、親日的な性格の団体と独立運動系列の団体に分類できる。また、設立の目的から政治・社会・経済・文化・宗教・思想・教育・労働・親睦・相互扶助団体に分けられ、団体の主体から青年・学生、労働者、実業家、賃貸人の団体に分けることができる。日本の官製組織、または御用団体としては、各種融和・親日団体、協和会、協助会などと戦争協力団体を挙げることができる。(「発刊の辞」より)

『事典』には、1945年以前につくられた在日朝鮮人団体のうち一次資料から存立期間や関連人物、活動内容が確認できる551の団体を収録した。存立期間が不明であったり短かかったりしても、関連人物と活動内容が確認できれば収録した。同郷団体や親睦団体、相互扶助団体、労働団体、留学生団体、教育団体、宗教団体、消費組合、内鮮融和団体など、いろいろな性格の団体が含まれている。在日朝鮮人史に関するこれまでの研究が、在日朝鮮人による抵抗運動の面を中心に見たり、在日朝鮮人を哀れな存在として取り上げたりすることが多かったのに対して、『事典』は分野や性格が異なるさまざまな団体の多面的な活動を、資料にもとづいて記述している点に特徴がある。(「解説」より)

『事典』の収録範囲は次のとおりである。

- ① 日本で朝鮮人が中心となって結成した団体。少数の日本人が含まれる団体、日本当局の関係者が団体の結成や活動を支援した場合でも、主要な構成員が在日朝鮮人であり、在日朝鮮人と関連した目的を掲げていれば、在日朝鮮人団体として収録した。
- ② 朝鮮で朝鮮人が結成した団体の日本支部・支会。(中略)
- ③ 日本で日本人が組織した運動団体に在日朝鮮人が加入して活発に活動をした場合も収録した。(中略)
- ④ 日本の行政当局や警察が、自らの目的によって朝鮮人を統制し、動員するために結成した団体。完全な官製団体である大阪府内鮮協和会と中央協和会、地域の協和会などがこれに該当する。在日朝鮮人の意志を反映していないため、厳密には在日朝鮮人団体とはいえない。しかし、事実上、在日朝鮮人すべてを組織対象とした協和会は、在日朝鮮人の歴史において極めて重要な団体である。協和会や類似の団体などから、日本の在日朝鮮人に対する政策と統制の程度を知ることができ、組織内外で展開された朝鮮人の対応を明らかにするためにも、実証的な研究が求められている。このような点から、これら官製団体も収録対象とした。(「解説」より)

<表1>『事典』収録項目の道府県地域別分布(528団体)

道・府・県	項目数	道・府・県	項目数
홋카이도北海道	2	시가滋賀	4
아오모리青森	1	교토京都	33
이와테岩手	1	오사카大阪	62
아키타秋田	1	효고兵庫	64
미야기宮城	2	나라奈良	7
야마가타山形	1	와카야마和歌山	1
후쿠시마福島	1	돗토리鳥取	3
이바라키茨城	1	시마네島根	1
도치기栃木	2	오카야마岡山	1
군마群馬	1	히로시마広島	22
사이타마埼玉	3	야마구치山口	14
지바千葉	5	가가와香川	1
도쿄東京	105	에히메愛媛	7
가나가와神奈川	11	도쿠시마徳島	1
야마나시山梨	8	고치高知	1
나가노長野	1	후쿠오카福岡	28
니가타新潟	7	사가佐賀	4
도야마富山	13	나가사키長崎	6
이시카와石川	14	구마모토熊本	5
후쿠이福井	4	오이타大分	6
시즈오카静岡	4	미야자키宮崎	6
아이치愛知	36	가고시마鹿児島	4
기후岐阜	1	오кина와沖縄	0
미에三重	19	사할린樺太	3

(「解説」より)

<表2>『事典』収録項目のうち1以上の地域・地方と全国単位(23団体)

区分	項目数	区分	項目数
도쿄·야마가타東京·山形	1	오사카·효고大阪·兵庫	3
간토関東	1	교토·오사카京都·大阪	2
야마나시·나가노山梨·長野	1	간사이関西	2
기후·시가岐阜·滋賀	1	전국 단위全国単位	12

(「解説」より)

(2) 執筆者

- 38名(韓国9名、日本29名)
- 執筆者は団体ごとに明記、編纂チームの研究員が執筆した場合は「編纂チーム」と表記

在日朝鮮人団体事典韓日共同編纂委員会

執筆者

韓国(9名):金廣烈(韓日共同編纂委員長)、金明燮、金承台、金仁徳、卞恩眞、成周鉉、林慧峰、鄭惠瓊、許光茂

日本(29名):河かおる、川瀬俊治、小松裕、木村健二、北原道子、金哲秀、金浩、長澤秀、西秀成、田中隆一、田中正敬、龍田光司、李豊海、松田利彦、宮本正明、水野直樹(韓日共同編纂委員長)、裴姈美、坂本悠一、杉本弘幸、砂上昌一、鈴木久美、吉澤文寿、内海隆男、井上學、堀江節子、堀内稔、藤永壯、樋口雄一(韓日共同編纂委員長)、広瀬貞三

編纂チーム(6名): 権時鏞、野木香里、朴光鍾、李明淑、李庸昌、趙漢成

資料調査・協力

秋元美穂、内田すえの、曹昇美、小佐野百合香、許美善

翻訳

金眞熙、趙眞慧

企画 李庸昌(総括)、朴秀炫、朴漢龍、趙世烈

監修 韓日共同編纂委員長 樋口雄一、水野直樹、金廣烈

検修 趙世烈

校正校閲 権時鏞、金恵英、野木香里、朴光鍾、李明淑、李庸昌、林茂成、趙漢成

編集 孫基順、柳妍榮

(3) 『事典』の構成

- 発刊の辞、凡例、解説、(全体)目次、団体目次、本文(収録団体別内容、ハングル団体名のカナダ順で配列)、付録(収録・未収録団体目録)、参考文献、索引(人名・団体)

(4) 団体目次

- 「ハンブル団体名一漢字団体名一存立(設立～解体)期間」を表記

쪽	단체명	존립기간
155	금화저축조합(금화회) 金和貯蓄組合(金和會)	1937.01~
156	기노모토진영회 木本進榮會	1938.12~
157	기로회 耆老會	1932.01~
158	기리시마친교회 霧島親交會	시기 미상
158	기시라즈교풍회 木更津矯風會	1938.05~
159	기업동맹기선부 企業同盟汽船部	1928.12~1933
161	기영회 耆英會	1932.01~
162	기후현조선인공제회 岐阜縣朝鮮人共濟會	1924.04~
163	김일성대 金日成隊	1945.03~
164	나카노현협화회 長野縣協和會	1939.12~
166	나가사키현내선협화회 長崎縣內鮮協和會	1936.04~1939.09
167	나가사키현협화회 長崎縣協和會	1939.09~
170	나고야가제트사 名古屋ガゼット社	1922.03~
173	나고야차가인동맹 名古屋借家人同盟	1933.09~1935.02
174	나고야합동노동조합 名古屋合同勞動組合	1935.02~1936.12
176	나라현협화회 奈良縣協和會	1939.03~
179	나카노친목회 中野親睦會	1934.12~
179	나카쓰내선동화회 中津內鮮同和會	1932.09~1940.03
180	난토봉공회 南島奉公會	1939.04~
181	내선공영회 內鮮共榮會	1928.11~
183	내선공조회 內鮮共助會	1926.07~
183	내선공조회 內鮮共助會	1936.06~
184	내선공존회 內鮮共存會	1928.08~
184	내선공존회 內鮮共存會	1931.12~
185	내선공화회 內鮮共和會	1925.04~
185	내선공화회 內鮮共和會	1933.06~
187	내선구진회 內鮮救進會	1933.01~
187	내선노동공제회 內鮮勞動共濟會	1929.08~
188	내선노동친화회 內鮮勞動親和會	1939.07~
189	내선동애회 內鮮同愛會	1925.11~
193	내선동인회 內鮮同仁會	시기 미상
194	내선동포회 內鮮同胞會	1933.02~
195	내선민우회 內鮮民友會	1930.02~
195	내선보국회 內鮮報國會	1932.07~
196	내선상목회 內鮮相睦會	1935.03~
197	내선상조회 內鮮相助會	1932.08~
198	내선상조회 內鮮相助會	1932.12~1937.12
199	내선애친회 內鮮愛親會	1932.05~
200	내선융화공조회 內鮮融和共助會	1931.07~
201	내선융화보국회 內鮮融和報國會	1936.08~

(5) 本文の構成

- 表題(ハングル団体名、漢字団体名、存立期間)、団体の性格の要約、内容、(団体別)参考文献
 - ※ 表題に続き、団体の地域、主体、性格などを把握できるように一行ほどの要約提示
 - ※ 本文の叙述と原則:資料で確認された沿革と活動を総合、年代順に叙述など
 - ※ 日本語のハングル表記と原則:「道・府・県」「市・郡・区」「村」はハングル読みで「도·부·현」、「시·군·구」、「촌」と表記、「町」は「ちょう」または「まち」と発音されることがあるが、どちらかひとつに判断することができないため、「정町」に統一、など

재일본조선노동총동맹 야마나시현조선노동조합 在日本朝鮮勞動總同盟山梨縣朝鮮勞動組合 | 1926~

야마나시현 내에 조직된 최초의 재일조선인 노동운동 단체

1926년 초 “상애회(商會)에 맞서기 위해 이번 봄에 화려하게 발회”했다고 보도됐던 결성 당시 회원은 33명이었고, 이후 ‘동지 100명’이라는 보도도 있었다. 이에 앞서 3월 21일 창립한 재일본조선노동총동맹 간토연합회(在日本朝鮮勞動總同盟關東聯合會) 참여 단체로도 확인된다. 5월에는 고후(甲府) 시내에서 조선인 노동자 수십 명을 모아 연설회를 개최했다고 하는데 상세한 활동 내용은 불명확하다. 임원으로 회장 임호(林虎), 집행위원 이복규(李復圭), 간부 이현(李憲)이 있었고, 다른 자료에는 임윤병(林允秉)과 구철(具鐵)도 간부로 확인된다.

같은 해 6월 14일 니시야쓰시로군(西八代郡) 도요와촌(豊和村) (현재 미나미코마군(南巨摩郡) 후지카와정(富士川町)) 후지미노부(富士身延) 철도 공사장에서 상애회 회원 30명과 반(反) 상애회계 노동자 150명이 충돌한 사건에서 재일본조선노동총동맹(1925.2.22, 재일노총) 계열 노동자의 존재가 보도되는데, 야마나시현조선노동조합의 관여 여부는 명확하지 않다. 8월 12일 “조선노동총동맹 간부 모습을 감추다”라는 보도 후 소식이 확인되는 것은, 1929년 8월 야마나시현 내 최대 제사공장(製絲工場) 쟁의라고 불리는 야지마(矢島) 제3제사공장 쟁의에 즈음해 고후시 내 조선인 남성 노동자 800여 명과 함께 “전(前) 노동총동맹선인노동조합야마나시연맹(勞動總同盟鮮人勞動組合山梨聯盟)의 선인(鮮人) 후쿠시마 요네요시(福島米吉)”가 지원을 신청했다는 보도가 마지막이다.

1929년 12월 결성한 히가시야쓰시로자유노동조합(東八代自由勞動組合)(쟁의단장 김재현(金在鉉), 松本一郎 등 조선인 노동자 참여가 확인됨)이나 1931년 1월 조직된 야마나시토건노조(山梨土建勞組)(일본토목건축노동조합 야마나시지부 또는 야마나시토목건축노동조합) 등의 활동과 관련성은 보이지 않지만, 이들 단체 보다 앞서 조선인 노동자와 야마나시현 무산정당(無産政黨)과의 계급적 연대, 공동 투쟁 등을 시도했다는 점은 주목할 만하다.

• 김호

참고문헌

『朝鮮日報』 1926.3.23 ; 『山梨時事新報』 1930.7.29, 7.30 ; 『山梨日日新聞』 1929.8.12, 8.17, 1931.3.26, 4.5 ; 『峽中日報』 1926.5.17, 6.15, 7.16, 8.12 ; 甲府勞政事務所, 『山梨縣勞動運動資料集』 1(爭議概況), 1949 ; 甲府勞政事務所, 『山梨縣勞動運動史』, 1952 ; 金洙, 『山梨における在日朝鮮人の形成と状況』, 『在日朝鮮人史研究』 11, 1983

내선흥조회 內鮮興助會 | 1931.06~1938.06

효고현兵庫縣 고베시에 조선인과 일본인으로 조직된 융화融和 단체

1931년 6월 21일 고베시神戸市 하야시다구林田區(현 나가타구長田區) 다치바나소학교橋小學校에서 최인순崔仁詢과 고타니 이와오小谷岩雄 등이 발기해 발회식을 거행하고 조직했다. 조직 안에는 소개부 등 13개의 부를 뒀었는데, 설립 1년 후의 실적으로 구호부의 진료 600건, 식사 급여 300건, 교섭부의 가옥 분쟁 조정 성공 52건 등이 확인된다.

일상적인 업무 외에 만주에 조사원을 파견하는 일에도 노력했다. “만주에 내지실업자內地失業者를 보내라는 여론 앞에, 수전水田 경영과 풍토에 익숙한 내지 거주 실업 선인先人을 보내 노동 예비군의 감소를 도모하고, 일면으로는 선인 자체의 덕화德化에 힘쓰고 싶다”라는 의도로,

(中略)

전체의 조선인 가정에 배포했고, 이달 19일에는 조선불교회관에서 방공 강연회도 개최했다.

1937년 7월 22일 여름 방공 연습에서 조선인 밀집 지역의 등화관계 성적이 불량하다며 시내 각 구의 조선인 청년 약 100명을 방공 지도원으로 꾸렸고, 지식층의 부인을 동원해서는 가정 방공의 의의를 철저히 하기 위해 조선불교회관에서 청년부의 방공 강연회를 개최한 데 이어, 23~24일에는 히가시시리이케東照池, 나다灘, 니시다이西代 등의 각 공회당에서 가정방공지도 부인강습회를 열었다. 이외에도 방공 선전 전단 2만 장을 한신 연선에 거주하는 조선인에게 배포하는 등의 활동을 펼쳤다. 이해 8월 국방부인회 결성을 위해 조선어로 된 「국부취의서國部勸諭書」와 「회칙」 등을 반포하고, 영화와 강연을 통해 조선인 부인들에게 총후보국운동銃後報國運動을 호소했다. 조선인 청년층에도 호소해 일동청년단日東青年團을 조직했고, 10월에는 단기입혼식團契入禮式도 거행했다.

1938년 4월 17일 자치제 반포 50주년 기념일을 맞아서는 조선인 동포를 규합해 모모야마 어릉桃山御陵을 참배했는데, 일본청년단·선인청년단과 조선불교부인회 회원 등 60여 명이 참가했다. 이해 6월 30일 해산됐지만, 구체적인 결과는 확인되지 않는다.

• 호리우치 미노루

참고문헌

『大阪毎日新聞(神戸版)』 1932.4.16, 1934.6.17, 7.21, 1935.10.10, 11.15 ; 『大阪朝日新聞』 1931.6.20(神戸版), 1932.4.16, 1934.3.30, 4.2 ; 『神戸新聞』 1937.10.3 ; 『神戸又新日報』 1932.1.26, 8.7, 1936.8.30(夕刊), 9.20(夕刊), 1937.7.24, 8.22, 1938.4.18(夕刊) ; 『中外日報』 1934.5.8, 6.1, 1935.3.20 ; 『社會運動の狀況』 1932, 1935, 1938

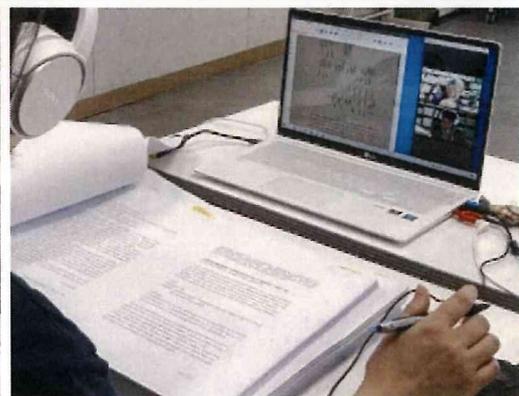
재만동포옹호동맹회 在滿同胞擁護同盟會 | 1931.10~

후쿠오카현 등 기타큐슈 지역의 조선인 단체들이 재만 동포를 돕기 위해 조직한 단체

1931년 7월 2일 '만주국'의 지린성吉林省 창춘현長春縣 교외에 있는 만보산萬寶山에서 조선인 농민들이 논 운영을 위해 완성한 수로를 중국인 300~400명이 파괴하는 사건이 발생했다. 일본이 의도적으로 이를 부추기며 보도했기 때문에 이에 격노한 조선인들은 7월 2일부터 10일까지 조선 내의 화교 거주지인 인천·서울·평양 등지에서 중국인을 공격하고 상점을 약탈했다. 「리튼Lyttton 보고서」에 따르면 조선 내의 중국인 피해는 사망자 127명, 부상자 393명에 이르렀다. 일본 내에서도 7월 11일 와카마쓰대화회若松大和會가 '만보산사건'에 대한 보복으로 지역 거주 중국인들에게 폭행을 가하려고 한 사건이 일어났다.

같은 해 9월 18일 '유조호사건柳條湖事件'을 계기로 '만주사변'이 발발하자 재만 조선인의 비참한 상황은 더욱 극심해졌다. 이들을 돕기 위해 기타큐슈北九州 지역의 조선인 단체들이 나서서 조직한 것이 재만동포옹호동맹회(이하 동맹회)였다. 이해 10월 23일 후쿠오카현福岡縣 고쿠라시小倉市에서 기타큐슈의 12개 조선인 단체의 30여 명이 모여 창립대회가 개최됐다. 이날 선출된 실행위원회에 향후 운동 방침 결정 등을 일임했다. 실행위원은 창립대회 사회를 맡은 정덕근鄭德根을 비롯해 손순필孫順必 박남정朴南鼎 김용태金容太 이치수李致守 이창조李昌祚 유경순俞慶淳 김충곤金忠坤이 맡았다.

(以下略)



(6) 付録

- 地域別在日朝鮮人団体目録(収録・未収録)
- 付録1 『事典』収録551団体の地域別目録
※<表1>、<表2>と同じ区分、ハングル団体名のカナダ順
- 付録2 資料で見る団体(約2,700団体の地域別データ)

付録2 資料で見た団体

1. 『在日朝鮮人団体事典 1895～1945』の執筆過程で整理した2,715の団体データを地域別に収録した。ハングル団体名のカナダ順に配列した。
2. 『社会運動の状況』に収録されている「融和親睦系／其他」(1931)、「在留朝鮮人主要団体現勢一覧表」(1932～1936、1940～1942)、「協和事業団体調」(1937～1939)、「昭和17年12月末現在 協和事業機構表」(1942)を中心とした。その他に新聞や雑誌、公文書等の資料で把握できるデータを追加した。
3. 各資料に記されている団体名や人名、日付等は修正・校正せずに原文のまま収録した。そのため、『事典』に収録されている団体も資料によって名称、関連人物、存立期間等が異なることがある。
4. 出典が複数ある場合、「大括弧[]」の中に資料の年度を記して区分した。
5. 「会員数」の項目には朝鮮人と日本人の会員の数を区分した。朝鮮人の会員数を先に記し、日本人の会員数は「括弧()」の中に入れた。(例)60(12)[1934]。正会員と準会員の数を区分する時は、「総会員数(正会員／準会員)」と記した。(例)3076(1631/1445)[1942]
6. 判読不能な部分については、字数の数だけ○で表記した。

(7) 参考文献

- 『事典』編纂に活用した主な資料と研究成果を収録

(8) 索引

- 本文に収録されている人名と団体を対象に作成、人名5,400余名、団体2,800余個

3. 意義と問題点

(1) 意義

- 1945年以前に日本各地でつくられた在日朝鮮人団体に関する研究成果を「事典」の形式でまとめた初の試み
- 551団体の沿革と活動、2,700余の在日朝鮮人団体目録、本文には5,400余名の人物(日本人含む)と2,800余の団体、宣言や綱領、組織図なども収録、在日朝鮮人史・朝鮮近代史・日本近代史など研究の基礎資料
- 在日朝鮮人が日本の差別と抑圧、統制に直面しながらも、自分たちの生活と文化を守り、朝鮮民族としての立場を失わず、ダイナミックに生きたことが提示
- 2000年代からの韓日連帯運動のひとつの結実、50名以上の韓日市民・活動家・研究者の協力、共同作業による成果

在日朝鮮人は、日本社会の差別と抑圧のなかで、自分たちの世界をもち、互いに力を合わせ連絡を取り合いながら行動した。日本当局によるさまざまな干渉があったが、自分たちの生活と文化を守り、朝鮮民族としての立場を失わず、生き生きと生活した。自分たちの力を養う努力をし、明るさとたくましさを絶えることなく維持した。そのような在日朝鮮人の歩みは、多くの場合、団体の形で見られるものといえる。『在日朝鮮人団体事典(1895～1945)』(以下、『事典』)刊行の最も大きな意義は、まさにこのように在日朝鮮人が朝鮮人として生きた世界が盛り込まれているということにある。(「解説」より)

『事典』の編纂事業には在日朝鮮人に関心を持つ韓国と日本各地の市民や研究者、活動家、地域で活動している在日朝鮮人研究者など38名と編纂チームが執筆者として参加した。執筆に直接参加してはいないが、資料を収集し、提供してくれた人もいる。韓国と日本の市民が協力して初めて『事典』を完成することができたのである。このことがこの『事典』の最大の成果である。(「解説」より)

(2) 問題点

- 研究と運動を同時に繰り広げる民間団体の特徴、 이슈が発生するたびに多方面から対応、とりわけ独自の事業が中断したり遅延
- 収録団体の地域偏差(収録団体がゼロ、あるいはひとつのみの地域、資料収集を十分にできなかった地域)、付録の地域偏差(収集資料の偏り)
- 韓国語で読みやすい文章にすることを目指したが、資料不足などにより十分にできず、翻訳・校正の難しさを痛感
- 日本での調査不足、収録できなかった団体、1945年以降に設立された団体

日本各地で組織された在日朝鮮人団体を網羅しようとしたが、<表2>と<表3>[<表1>、<表2>]に示されるように、地域的な分布に偏りがあることは否定できない。団体を収録できなかった沖縄をはじめ、1、2の団体しか収録されていない地域も多い。これは、そもそも在日朝鮮人が少なく、団体もほとんど組織されなかったこと、団体があったとしてもそれについて記述した資料が作成されなかったことが原因と思われる。(「解説」より)

4. 広報と今後の活用

(1) 報道

- 2022年2月27日、民族問題研究所、報道資料配布
- 2022年2月28日、「民族問題研究所、日帝時期在日朝鮮人の組織活動を取り上げた事典編纂」『聯合ニュース』
- 2022年3月14日、民族問題研究所ポッドキャスト「歴発想」第1回第2部、編纂チーム出演
- 2022年3月22日、「40人以上の韓日の研究者が10年かけて『在日朝鮮人団体事典』を完成しました(한일 연구자 40여명 10년 걸려 ‘재일조선인단체 사전’ 냈죠)」『ハンギョレ新聞』
- 2022年4月12日、「日本で朝鮮人がつくった団体が2,700余り・・・それは生存のための闘争」『韓国日報』

- 2022年4月26日、「歴史の空白「日帝下在日朝鮮人」、組織活動から照明」『統一ニュース』
- その他：民族問題研究所会報『民族サラン』2022年5月号など

(2) 受賞

- 2022年3月～、教育部委託・大韓民国学術院「優秀学術図書」選定・支援事業、応募
- 2022年7月19日、大韓民国学術院「2022年優秀学術図書(韓国学分野)」決定、10月以降、大学図書館への100部以内普及
- 2022年下半期、韓国日報主管「韓国出版文化賞」、応募予定



(3) 普及

区分		部数	備考
寄贈	日本	139	
	韓国	120	
販売(韓国出版協同組合納本基準)		80	
合計		339	2022年7月現在
※大韓民国学術院「2022年優秀学術図書」関連		(100以内)	(2022年10月以降執行)

(4) 今後の活用

- より広く普及し、韓国と日本における歴史認識の深化に活用、市民や研究者が地域社会における在日朝鮮人の歩みに関心をもち、新たな事実が掘り起こされることを期待
- 『改訂増補版 親日人名事典』編纂の際に活用、日本で活動した独立運動家の発掘に活用
- 2021年7月27日、韓日共同編纂委員会第5回会議(オンライン)開催、日本語版の刊行に向けて準備開始

2022年8月13日

在日朝鮮人運動史研究会 合同研究会

引用・転載厳禁

「新潟県事件」（1922年）をめぐる朝鮮人共産主義グループの動向

李豊海

※お断り

本報告は「新潟県事件」（1922年）から100年となる今日、その歴史に改めて注目すべきだという問題意識に基づいており、またその運動史上の意味を再び考察すべき必要性があるとの課題に沿った報告になっている。問題意識と課題が先行しているため、実証程度は不足している中間報告という性格をもっていることを先にお断りしたい。在日朝鮮人運動史上の様々な課題が浮上していく契機として「新潟県事件」が位置付けられるが、本報告もその後の展開に結び付けていくための一節として行うことにする。

はじめに

1) 「新潟県事件」から100年—研究史と史資料

- ・1922年7月29日付『読売新聞』朝刊5面「信濃川を頻々流れ下る鮮人の虐殺死体」の見出しで報道
朝鮮人「虐殺」が「怪聞」「風聞」「目撃した人の話」として報道（記者：村田豊明）

→事件の真相、「虐殺」の事実を明らかにすることが事件当時と研究史上の課題

- 1965年 朴慶植著『朝鮮人強制連行の記録』（未来社）で「信濃川水力発電所虐殺事件」が紹介
関東大震災下における朝鮮人虐殺事件の前年にあった事件として資料紹介（218~228頁）

資料①『読売新聞』1922年7月29日付

資料②『東亜日報』1922年8月1日付／『東亜日報』同年8月20日付（李相協報道）

資料③朝鮮総督府警務局資料

鮮高秘乙第623号「信濃川虐殺問題大演説会開催ノ件」1922年9月5日

鮮高秘乙第627号「信濃川虐殺問題演説会ニ関スル件」1922年9月7日

資料④片山潜「日本における朝鮮人労働者」『エル・ゲー・イー（赤色労働組合インタナショナル）』第6号
（独）1924年6月（『片山潜著作集』第3巻所収、1960年）

- 1972年 岩村登志夫著『在日朝鮮人と日本労働者階級』（校倉書房） 日朝労働者連帯の課題

大演説会におけるアナ・ボルの統一戦線／日朝労働者連帯の課題（67~69頁）

資料⑤山川均「日鮮労働者の団結」『前衛』1922年9月号

- 1979年 朴慶植著『在日朝鮮人運動史 8・15解放前』三一書房（102~103頁） 労働運動への連続性

信濃川虐殺事件→在日本朝鮮人労働者状況調査会→朝鮮労働同盟会（120頁、147~148頁）

資料⑥『亜細亜公論』1922年10・11月号の事件に関する特集

- 1982年 張明秀による事件関連『東亜日報』記事の翻訳・紹介¹

¹ 張明秀（1980）「中津川水力発電所における朝鮮人労働者虐待・虐殺事件—『東亜日報』掲載の資料紹介—」『新潟近代史研究』第3号。

資料⑦報道記事 25／李相協連載記事「新潟の殺人境＝穴藤踏査記」12／社説 4、広告 2

1985年 佐藤泰治「新潟県中津川朝鮮人虐殺事件（1922）」『在日朝鮮人史研究』第15号²。

「新潟県中津川朝鮮人虐殺事件」と呼称。事件の現場は信濃川支流の中津川上流であったため。

「事件の黒白の究明に最大のねらい」を置いて調査（60頁）。

「限りなくクロに近い灰色事件として迷宮入り」（59頁）。

資料⑧中央紙：『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』『東京日々新聞』『大阪毎日新聞』『読売新聞』

資料⑨地方紙：『新潟新聞』『新潟毎日新聞』『高田新聞』『高田日報』『柏崎日報』『越後タイムス』『十日町』

資料⑩地元住民の証言 11名（＋岡本愛彦（1978）『日本人への遺書』未来社）

2010年 裴玲美「1922年、中津川朝鮮人労働者虐殺事件」『在日朝鮮人史研究』第40号。

資料⑥『亜細亜公論』『信川電化工事中の怪聞 朝鮮人虐殺に対する批判』を利用

日本人と朝鮮人それぞれの事件に関する認識を分析

2020年 裴玲美「1920年代二度の朝鮮人虐殺」『韓日関係史研究』第67集（朝鮮語）。

資料⑪『京城日報』（『毎日申報』）

・先行研究の視角（3つ）

「虐殺」事実の検討／朝鮮人労働者の団結・組織化の契機／日朝労働者連帯の課題

2) 「新潟県事件（1922）」という呼称

・「信濃川水力発電所虐殺事件」：当時の報道と官憲資料の記載から

・「新潟県中津川朝鮮人虐殺事件」：事件の現場、真相を重視する立場から

・本報告では「新潟県事件」

①朝鮮人調査団体・運動団体・運動家が用いていたため

「新潟県朝鮮人虐殺事件調査会」（ソウル）／「新潟県朝鮮人労働者問題調査会」（東京）

東亜日報特派員の李相協「新潟県事件特電」

②虐殺事件の連続性と記憶

「嘗ての新潟県の虐殺事件あり続いて関東大震災当時の東洋未曾有なる大規模の虐殺事件があった。又斯様な殺戮をもっと一般的意義的にもっと具体的計画的にやらうとする小樽想定事件迄が発生した次第である。茲に呪はれたものの胸底に透るものがある。夫が未だ記憶に新たである中に又もや虐殺の惨劇は三重県に起こったとは我々をして最後の決心を促すものでなければならぬ。」³⁾

3) 課題—なぜ「朝鮮人共産主義グループの動向から」なのか

・理由①先行研究では朝鮮内における民族解放運動勢力と調査の関係に対する認識が希薄

『東亜日報』や「新潟県朝鮮人虐殺事件調査会」（ソウル）では民族統一戦線の動きがみられる。

² 佐藤論文は「新潟県中津川朝鮮人虐殺事件」に関する調査・分析の「完成型」であるが、それまでにいくつかの論稿を発表している。

1980「新潟県における朝鮮人労働者（一）中津川朝鮮人虐殺事件」『新潟県部落史研究』第3号。

1982「新潟県における朝鮮人・ノート」『新潟近代史研究』第3号。

³ 在日本朝鮮労働総同盟・在東京朝鮮無産青年同盟会・三月会・一月会「三重県撲殺事件に際し全日本無産階級に訴ふ」1926年2月10日（大原社会問題研究所所蔵）。

民族主義勢力と社会主義勢力間の関係／社会主義勢力間の関係という2つの側面が複雑化していた⁴。

この関係を踏まえて検討がなされなかった原因は「合法」的な側面のみ焦点を当ててきたため。

「非合法」的な側面＝朝鮮人共産主義グループの動向から調査の歴史的意味を捉える必要がある。

- ・理由②日朝労働者連帯の課題も「非合法」的な側面から把握する必要

日本共産党と朝鮮人共産主義グループは事件をめぐるいかなる関係をもったのか。

朝鮮人共産主義グループはどのような立場をとっていたのか。

※朝鮮人共産主義グループという用語⁵

「無原則的な派閥闘争」観、コミンテルン・ソビエトロシア従属論を批判する立場

「党」でなくとも独自の組織的規律、政治思想、政策を備えていたため「グループ」と呼称

1. 新潟県事件をめぐる朝鮮人の動き

1) 朝鮮人による調査・報告会（1922年）

月日	内容	掲載日付
8/1	『東亜日報』が「日本における朝鮮人大虐殺 見よ！この残忍あくどい惨劇を 一日十七時間の苦役を強制しておいて 逃亡すると銃殺し川に投棄 毒魔によって惨殺された者百余名」の見出し記事を掲載。朝鮮総督府警務局から発売禁止、押収された。総督府警務局は事実について内務省に照会したところ、「新聞に報道されたような事実はまったくない」と回答があったと発表。	東亜 8/1 東亜 8/4
8/3	朝鮮基督教青年会館（神田区）で東京在住朝鮮人の集会。20名の委員を選出。	東亜 8/13
8/5	鍾路中央青年会館で青年連合会・新生活社・開闢社・朝鮮教育協会とその他多数の団体有志50余名が集う。金明植の目的説明、会議の名称を新潟県朝鮮人虐殺事件調査会（以下、事件調査会）に定め、朴熙道ほか9名の執行委員を選定、すべての事項を委員会に委任することを決定。	東亜 8/7
8/6	堅志洞新生活社で（事件調査会）執行委員会を開き協議した結果、委員長に朴熙道を選定、臨時事務所は仁寺洞労働共済会に置く。	東亜 8/8
8/6	東亜日報編集局長の李相協が真相調査のため特派。	東亜 8/6
8/7	羅景錫（執行委員か）が事件調査のため特派。	東亜 8/8
8/9	東京在住朝鮮人が委員会を開き、金若水を代表として実地調査することを決定。	東亜 8/13
8/10	金若水が東京を出発	東亜 8/13
8/11	李相協が水野錬太郎内務大臣、赤池濃拓殖局長官、後藤文夫警保局長、信越電力会社東	東亜 8/13

⁴ 1998年に韓国歴史研究会の「コミンテルンと朝鮮研究班」が「共産主義グループと党統一運動（1922～1924）」という特集（『역사와 현실』第28号）で4本の論文を発表し、1922年から1924年までの二つの側面の関係が明らかにされた。しかし、日本においてはこれらの研究論文は小野容照（『朝鮮独立運動と東アジア』思文閣出版、2013年）を除いて参照されてこなかった。4本の論文は、以下の通りである（すべて朝鮮語）。

林京錫「ソウル派共産主義グループの形成」、朴哲河「北風派共産主義グループの形成」、李愛淑

「1922～1924年国内の民族統一戦線運動」、姜浩出「在露領高麗共産党創立代表会準備委員会研究」。

⁵ 林京錫（1998）「総論：共産主義運動史研究の意義と課題」『역사와 현실』第28号（注4の特集）。

	京本社の代表者、日本土木会社（大倉組）の重役を訪問、虐殺の事実を否認される。読売新聞社を訪問（～11日）。李相協と羅景錫が東京を出発。	
8/12	羅景錫が新潟県庁を訪問。	佐藤
8/13	金若水・羅景錫が大割野富田屋に宿泊。	佐藤
8/14	李相協が新潟県庁大田知事と面会。 李・羅・金が大阪荻林組請負工作所を巡覧するが「隠されたような事実は発見できなかった」。	佐藤 東亜 8/17
8/14	黄錫禹が新潟県庁の平田部長を訪問。15～18日岩船調査。	佐藤
8/15	李・羅・金は芦ヶ崎、大割野飯場を調査。	佐藤
8/16	李・羅・金は穴藤飯場に泊り、穴藤調査（～17日）	佐藤
8/19	黄錫禹が村上より大割野へ向い、21日まで3日間調査。	佐藤
8/19	工事場の朝鮮人労働者金同伊ほか2名が飯場を逃れて東京到着。	東亜 8/22
8/20	調査員が東京到着（～20日）。東京の調査委員会が委員会を開く（50余名が結集、麹町警察署の署長以下30名の警官が包囲）。金若水の調査報告、金同伊ほか1名による虐待事実経験談。	東亜 8/22
8/22	黄錫禹が新潟新聞社を訪問し、警察の発表に不満を示す。	佐藤
8/26	新潟県朝鮮人労働者問題調査会（以下、東京調査会）は神田区錦町の朝鮮基督教青年会館で会議を開催。実地調査委員の金若水による調査報告があり、今後の対応方針を決議。100余名が参集、警察の警戒は厳重。	東亜 8/28
9/7	東京調査会主催の新潟県朝鮮人労働者虐殺問題演説会を教青年会館（神田区美土代町）で開催。日本人2千名、朝鮮人5百余名。羅景錫と朴烈の実地調査報告、各演士の演説。弁護士金炳斗の演説中に中止命令を受け、白武の演説が始まると署長命令で巡査が白武を拘引、解散命令を受ける。朝鮮人5名、日本人2名が錦町警察署に拘引。調査委員会の金天海も検束。	東亜 9/6、 9/8、9/9
9/16	東京調査会は朝鮮基督教青年会館で在日朝鮮人労働者状況調査会という常設機関を設置することを協議するために総会を開き、300名が参会。即時解散命令を受け、徐定祐を検束。	東亜 9/18
9/25	日本在留朝鮮労働者状況調査会を組織、17名の委員を選定。北海道・新潟・大阪・九州の各地方にある監獄部屋を視察し、在留朝鮮人の虐待防止と福利増進などを決議。	東亜 9/24 東亜 9/27
9/27	新潟県朝鮮人虐殺事件調査会第二回報告会が天道教堂で開催。羅景錫の演説。事件調査会は解散し、在日朝鮮人労働や虐殺調査常務機関を設けようという動議が可決。	東亜 9/29

注：『東亜日報』は「東亜」と略記した。

「佐藤」は佐藤泰治論文（1985：89頁）からの引用である。

2) 李相協『東亜日報』連載記事「新潟の殺人境＝穴藤踏査記」（合計12回）の見出し一覧⁶

①8月23日付（危険・過酷な労働と虐待）

・人跡不到の深山中に 夜も昼も地獄谷で あぶななしい仕事を継続する危険

⁶ 張明秀（1982）による翻訳をそのまま記した。（ ）内は記事の特徴を報告者が記したものである。

- ・極めて危険な工事現場 高山峻嶺の中で ひやひやする労働
 - ・惨虐無道な苦役 三日間以上継続できず マラリア患者の如く休む理由
 - ・松風さえ哀呼する 悲劇的一幕 苦役の上の虐待 その事例に接した時
- ②8月24日付(大倉組の朝鮮人労働者募集方法)
- ・虐待される労働者は 大倉組に囚われた四百余名、彼等はすべて募集労働者
 - ・募集手段から奸悪 甘言利説で騙し 募集口銭も喰う
- ③8月25日付(大倉組一賃金搾取の構造)
- ・ピラミット式の搾取制度 あらゆる手段でかすめ取り 残りが労働者の賃金
 - ・悲痛な労働者の告白 賃金の仕組みは知らされず 粉骨砕身した報酬は虐待だけ
 - ・頭目の資格は「悪漢」 ふてぶてしい大倉組
- ④8月26日付(大倉組一労働条件違反、労働契約書の不渡し)
- ・虐待は死後まで 一つも果たされぬ契約条件 ゲンコツで殴り殺された労働者
 - ・奇奇怪怪な詐欺手段 労働契約書すら 渡さない日本人
- ⑤8月27日付(日本人労働者と朝鮮人労働者間の差別)
- ・ことごとに差別 日本人と朝鮮人労働者間に 事毎に受ける差別待遇
 - ・食事も差別 失敗は日本人で 殴られるのは朝鮮人労働者
 - ・みよ、この虐刑の実例を 逃げる労働者を捕え 二日間も氷づけ
- ⑥8月28日付(逃亡阻止、警戒網)
- ・逃走を取り締る理由は 工事現場の秘密がばれることより 頭目の直接の収入減をおそれて
 - ・労働者は網中之魚 頭目なる者の恐るべき警戒網
 - ・脱走は決死的行為 朝鮮人の逃亡を捕えるに腐心 ほうぼうに張られた網の目
- ⑦8月29日付(飯場の構造と問題)
- ・日本の名物、地獄室 はたして地獄室の内側は? 逃亡者を取り締るうえでは世界的名物
 - ・飯場とは牛舎の構造 夏は暑く冬は寒い
 - ・食堂も寝室も便所も たったひと部屋ですます 飯場は悪臭の共進会
- ⑧8月30日付(大頭目鈴木音次郎、小頭目中島による朝鮮人虐待)
- ・悪魔の大頭目鈴木 朝鮮人三百名をひき連れ 虐待はみなこの者の仕うち
 - ・三週間の病苦のはて化作怨魂 小頭目中島の非道 惨死する朝鮮人労働者
 - ・逃走して餓死した兄弟 中島の虐待を証明する事件
 - ・結束して松の枝に逆さ吊り 日本人頭目の悪刑罰
- ⑨8月31日付(小頭目三勝による朝鮮人虐待)
- ・裸体をめった刺し 雪の穴に三時間も埋め 山の葬儀を行なう虐待の実例
 - ・三人をセメントで生き埋め やれぬことない悪毒の群れ
 - ・私信まで盗見 逃亡犯のように虐待する頭目の群
- ⑩9月1日付(小頭目浜田による朝鮮人虐待、逃亡阻止)
- ・悪魔の部下が朝鮮へ
 - ・金銭的にも受ける苦痛 賃金を貯蓄だと天引き 労働者の逃亡を防ぐ方法
 - ・豚や犬の待遇 虐待をするものが豚や犬か 虐待を受けるものが豚や犬か
- ⑪9月2日付(所轄警察側の杜撰な「調査」)

- ・所謂警察側の報告 朝鮮人労働者、殺した事実は 調査した結果、ありえないと
- ・不可解な警察の調査 なにが事実なのか 調査方法から疑問

⑫9月4日付(所轄警察に対する朝鮮人側の疑い)

- ・無誠意な当局者 三日に一回ずつ調査するという 所謂管轄警察側の態度
- ・いわゆる死者からの通信 死者が書いた手紙、巡査の調査は正確?
- ・管轄署長の答弁 あらゆる事実を全然知らなかったと 虐殺の事実が無いというのも奇怪

3) 李相協特集記事の内容

- ・大林組、大倉組配下の朝鮮人労働者数。ほとんどが慶尚南道出身、慶尚北道・全羅道・京畿道出身者が若干。
- ・大倉組の朝鮮人労働者募集方法。甘言利説、釜山→神戸→穴藤、「詐欺であり人身売買」。
- ・大倉組→大頭目4名→小頭目(飯場頭)→什長。中間搾取。二重三重の賃金搾取。虐待。
- ・大倉組にのみ有利な労働契約。契約内容違反―旅費、治療費、休日の食費、慰労金の不払い。契約書不渡し。
- ・前借金なしで20ヶ月の労働。日本人と朝鮮人の間で平均日給30銭ないし50銭の差。残業金の支払いなし。
- ・日本人労働者の過失によるものだというのが明確である時も朝鮮人労働者に侮辱・暴力。
- ・逃亡に対する監視。雪と氷の中に足だけをつけさせ重い鉄板を持たせる。おろせば棍棒で乱打。
- ・監獄部屋=日本の特産物。一坪に4人か5人ずつ、「[三・一] 独立運動があった当時の朝鮮の監獄と同じ」。
- ・大倉組の大頭目鈴木音二郎が労働者500名のうち300余名もの朝鮮人労働者を働かせている。虐待事件の現場。
- ・小頭目中島良三郎。沈東介が重病で「他郷の仏」となる。弔慰金1銭も出さず。
兄の朴珍烈(別名朴張津)と弟の朴寿烈は逃亡したが餓死(弟のみ)。
飯場長の吾妻秀松の下で働いていた朱洛淳、李洪根は逃亡したが捕まり、山中の松の枝につるされる。
- ・小頭目鈴木勝次郎(=三勝)。金甲詰は逃亡するが捕らわれ、刺されたうえ雪の中に三時間埋められる。
禹徳東、禹允成、禹仁賛が逃亡するが捕らわれ虐待をうける。裸で冷たい水に投げ込まれる。砂利とセメントを混ぜて身体のまわりにつめこみ、さらに上から水をかけて放置される。
申明玉、権元童は逃亡して捕まり、暴力を加えられた上、鉄板を頭上に持ち上げさせられ、落とすと棍棒で殴打される。二度目の逃亡を成功させる。
- ・虐待の事実が漏れるのを防ぐため頭目は手紙をあけて見る。申明益は大阪地方の兄から手紙の内容を見られて三勝にコンクリート潰しにされたという。
- ・小頭目浜田与五郎。新たに多くの労働者を連行するため朝鮮で募集。
- ・逃亡阻止のための賃金搾取、強制貯金。逃亡するには賃金と貯金を置去りにする必要がある。
- ・十勝町警察署と大割野駐在所、巡査数名は会社の請願巡査。朝鮮語を解する巡査二名を配置。
- ・「朝鮮人労働者を直接殺した事実を発見し得なかったので、駐在所の調査が間違っていると断定することはできない。だからと云って駐在所の調査が正確なものだと信ずることもできない」という疑い。
調査の程度も信頼できない。
「われわれは百万手をつくして知りえた若干の調査資料の中から、そのうち確実なもの幾つかを、関係官吏の希望に応じて話した。」内務省警保局事務官、新潟県警察部保安課長・刑事課長、十勝町警察署長と。
質問「所轄警察署長としてこのような事実をまったく知らなかったのか?知っても知らないふりをしていたのか?」
署長「まったく知らなかった。」
質問「人間の身を手かぎでめった刺しにしたことも知らなかったのか?」

署長「知らなかった」

質問「人をまっ裸にして雪の中に座らせたり、セメントと砂利でかためた事実も知らなかったのか?」「知らなかった」

質問「労働者を夜ごとに監獄室に監禁した事実も知らないのか?」

署長「うさでは聞いたが事実あることはわからなかった」

4) 朝鮮人・民族に対する虐待・虐殺として

- ・新潟県朝鮮人虐殺事件調査会の看板を外せと命令する鍾路警察署とのやりとり（東亜 8/9）

警：委員長朴熙道を呼び「すでに警務当局からそのようなこと〔朝鮮人虐殺〕はないと伝えたが、なぜそれを信じず、また調査会を組織したのか」と質問

朴：「当局では事実を否認しようともその事実が日本と朝鮮の各新聞に発表された以上、我々は我々で調査してみる必要があり会を組織した」と回答

警：「しかし朝鮮人虐殺調査会という「虐殺」の二字が穏当でないため、会の看板を外せ」と命令

朴：「そのように会を組織したことは世のすべてが知る事実であるのに、もう看板を外してしまえば世がどういうことかと思うために外せない」と拒否

警：「それは我々が責任を負って外せ」と命令したものと再度迫る

朴：「そのように強制して外せというなら我々が外さなくても警察が看板を押収していくため、やむを得ず外そう」と言って、看板を外した

- ・朝鮮人による調査の迅速さ・徹底さ（東亜 8/22）

「〔調査後〕今の形勢では、面目が一新された。こうなるとわれわれ一行よりもおくれて調査にいった人達は、雇主を弁護する資料を提供されるだけで、なんの事実も調査できない。また雇主側も、われわれの調査が予想以上の厳密さに驚き、警戒が一層綿密になったので、日本人で調査に行った人は、なおさら虐待の事実は調査できないはずであると云う〔逃亡に成功した朝鮮人労働者によれば〕。」

- ・大韓民国臨時政府の機関紙『独立新聞』も問題視（『東亜日報』の記事引用）

「敵地新潟県電気工場の韓人労働者虐殺事件 新聞の報道を敵当局は否認し 我が期間は事実を調査している中」『独立新聞』1922年8月22日付（2面）。

「新潟県虐殺事件調査 彼側の隠諱により調査は困難であるが虐待と惨刑の実例は歴歴自在 監禁、肉傷、圧搾、炮烙」『独立新聞』1922年8月29日付（1面）。

「虐殺事件の始終 東京では決議文通過」『独立新聞』1922年9月11日付（1面）。

「新潟県虐殺事件について 敵京で韓日連合大演説会 同事件調査会の発起で大盛況となる中警察の強暴で畢竟解散させられ革命歌を高唱する中で五六名が被引される」『独立新聞』1922年9月20日付（3面）。

2. 朝鮮産主義グループの動向

※朝鮮民族解放運動勢力は事件にいかに関係していくのか。

1) 結成期の共産主義グループ

グループ名	ソウル共産団体	朝鮮共産党	マルクス主義	社会革命党	李英グループ
-------	---------	-------	--------	-------	--------

			クルジョーク	(上海派)	
結成時期	1919.10	1920.3.15	1920.5	1920.6	1920.6
人数	20 余名	15 名→47 名	7 名	約 30 名	
合法団体	労働共済会		労働共済会	青年会連合会…	青年会連合会
特徴	21 年 5 月イルクーツク派高麗共産党創立大会に代表出席	中立党の起源	機関誌『共済』の編集部を中心 北風派の母体	新亜同盟団の後身 21 年 5 月上海派高麗共産党創立大会に代表出席	社会革命党 (ソウル派) が結合し、ソウル派を形成

2) 共産主義グループの統一と分裂、民族統一戦線

(1) 金允植社会葬をめぐる (林京錫 2005)

1922.1.21 雲養・金允植が死去

1.24 社会葬にすることが決定。民族主義畿湖派 (京畿・忠南・湖南) が中心。

金允植: 「韓国併合」に反対せず、子爵を授与。三・一運動「朝鮮独立請願書」署名者の一人。

東亜日報社の支援。実力養成を通じた文化運動論 (ワシントン体制への対応)

民族主義勢力の政治勢力化 (独立) のために社会葬を活用

社会革命党 (上海派) → 上海派高麗共産党国内部の勢力が参与 ※民族革命段階の規定

1.27 金允植社会葬反対会

「非合法」: 朝鮮共産党、社会革命党 (ソウル派)、イルクーツク派国内部 (ソウル共産団体の後身)、

在日本朝鮮人共産主義団体 (東京に移動後、21 年 5 月 7 日に結成) が連合して主導

『東亜日報』批判・非買。講演会を通じた反対。

・上海派高麗共産党国内部の分裂

『東亜日報』の社説執筆陣に張徳秀、金明植。

金明植を中心とした社会主義者は民族主義者と新生活社を組織 (1922.1.15)

東亜日報社と新生活社が金允植社会葬をめぐる対立

・性格

上海派国内部+民族主義畿湖派 (東亜日報社) と 4 つの共産主義グループ連合+新生活派の対立

上海派国内部の文化運動論への反対

→共産主義グループ朝鮮共産党と社会革命党 (ソウル派) が合同し、中立党を形成。

「合法」団体の無産者同志会と新人同盟が合同し、無産者同盟会を結成 (1922.3.31)。

(2) 「合法」空間における統一と分裂 (『역사와 현실』第 28 号の 4 論文)

・青年会連合会、ソウル青年会、朝鮮労働共済会に各共産主義グループの構成員が同居

→上海派国内部をこれら「合法」団体から除名する動き (22 年 4~6 月)

・青年会連合会第 3 回大会では上海派国内部の張徳秀、金明植らを除名する案が提出されたが否決

→他の共産主義グループの構成員は青年会連合会から脱会

・ソウル青年会、労働共済会からの除名には成功/イルクーツク派国内部も排斥 (自由市事件)

→中立党の影響力が強化。

(3) ヴェルフネウジンスク大会 (林京錫 2007、2008)

1922.10.19-28 ヴェルフネウジンスクで高麗共産党統合大会が開催。

上海派高麗共産党とイルクーツク派高麗共産党の統合大会←コミンテルン「1922年4月22日決定書」

代表者の資格をめぐる対立。上海派が多数派を形成、イルクーツク派が脱退。

・中立党の分裂—参加をめぐる

参加：朝鮮共産党／不参加：社会革命党（ソウル派）

※共産主義グループ間の関係

上海派国内部／朝鮮共産党＋在日本朝鮮人共産主義団体／社会革命党（ソウル派）＋新生活派

ただし、(2) (3) の間で一時的に共同行動。民族主義勢力の影響は多大でそれを利用。

→新潟県事件に対する共産主義グループの活動は「共同行動期」になされたもの（李愛淑 1998：101-102）。

3) 日本帝国「内地」における朝鮮共産主義グループ

(1) 在日本朝鮮共産主義団体（1921.5.7）

・金若水、鄭泰信が日本に拠点を移動／『大衆時報』の発刊

・卞熙瑢（在東京留学生学友会）が出版に協力（小野容照 2013：209-210）。卞は上海派と関係。

・黒濤会（1921.11）を無政府主義者の朴烈、上海派の卞と共に組織

→22年11月に朴烈ら無政府主義者の黒友会と、共産主義者の北星会に分裂。

・北星会には在日本朝鮮共産主義団体と上海派の両グループが同居（朝鮮内と状況は異なる）

(2) 日本共産党との関係

・金若水、朴烈、金天海は暁民会の会員。高津正道と関係。「小さいインタナショナル」

・コスモ俱樂部に加盟した朝鮮人は日本共産党の結党に一役買う（金珍雄 2019）。

・21年4月、日本共産党暫定執行委員会が成立（上海からの朝鮮人密使）。

片山潜が極東諸民族大会のために起草した「日本共産党綱領」では東アジア諸民族による統一戦線の形成が
目指されている（黒川伊織 2020：42頁）

日本共産党「22年9月綱領」にも「国際連帯」による革命を掲げている（黒川伊織 2020：47）

3. 大演説会からみる「非合法」側面との関係

※以上のような関係を踏まえて大演説会についてみる。

・9月7日、午後7時から神田区美土代町青年会館で「調査会」主催の「新潟県朝鮮人労働者虐殺問題演説会」
が開かれた。開会の2時間前から聴衆が「潮の如く押し寄せ」、午後6時までには2千名を超えたという（東亜
22/9/9）。2千名以上という聴衆の数を鶴呑みにできないが、大規模な演説会であったということはわかる。規模
の大きさに加え注目されるのは、朝鮮人の主催によって開催された演説会は「前例のないこと」であったという
ことである（東亜 22/9/6）。これ以前の演説会は、日本人の主催、あるいは共同主催でなされていたのかは現在の
時点では確認できないが、興味深い指摘である。朝鮮人の主催による「はじめて」の演説会であったこともあり、
演説会当日に警察による圧迫が加えられ、演説会の内容を変更せざるを得なかった。計画段階では次のように朝
鮮人・日本人側の演士が予定されていた（東亜 22/9/6）。

朝鮮人側

鄭雲海、羅景錫、朴烈、鄭泰成、白某（白武）、金鍾範、申某、金炯斗（弁護士）、李康夏
日本人側

山道襄一、中野正剛（革新倶楽部代議士）、堺利彦、大杉栄、中濱哲、小牧近江、松本淳三

しかし演説会当日、警察は「興行物規則で取締ろう」とし、あるいは「堺利彦、大杉栄などの社会主義者が参加すれば開会すると同時に解散させる」と脅した。そのため、演説会を主導する委員が堺利彦、大杉栄ほか数名の演士を除くことを「苦心惨憺」して決めた。錦町警察署からは署長以下警官約 60 余名、警視庁内鮮係からは総出動し、会場に入場する際には厳重な身体検査をされた（22/9/9）。結局会場内に入れた聴衆は日本人 1 千名、朝鮮人約 500 名で、1 千名ほどは入場できなかったという。金炯斗の演説中に中止命令、白武の演説開始時に巡査 10 余名が演壇に飛び込んで引き下ろした。解散命令を出す。

・「鮮高秘乙第六二七号 信濃川虐殺問題演説会ニ関スル件」1922 年 9 月 7 日

出席者ノ主ナル者

李如星、黄錫禹、徐相一、鄭雲海、羅景錫、朴烈、金若水、李康夏、朴治鎬、柳震杰、張祥重、申栄雨、卞熙瑢、李周和、金炳斗、高津正道、中名生幸力、小池薫、浦田武雄、望月桂、渡辺満三、長島新、坂野八郎、橋浦時雄、伊藤逸郎、富岡誓

・朝鮮人共産主義グループ間の関係

在日本朝鮮共産主義団体：金若水、李如星、鄭雲海、李如星

上海派：羅景錫、卞熙瑢

→「共同行動期」の状況。朝鮮・日本のどちらにおいても共同行動。

・朝鮮人団体との関係

アナキズム系：朴烈、黄錫禹、張祥重、鄭泰成／その他は学友会（学生団体）など

→思想・政治的立場の相異はあるが朝鮮人の民族問題として共同行動。

・「連帯」の課題

日本共産党：堺利彦

暁民会：高津正道

アナキズム系：大杉栄／富岡誓＝中濱哲：事件を 2 週間単身で調査。演説会で 12 日間拘留をうける。

→アナ・ボル対立の中で統一戦線（岩村登志夫 1972：68 頁）。

※幅広い統一戦線が成立。ただし、「労働者一般」の問題として矮小化されることの限界性（裴始美 2010）。

おわりに

・朝鮮人共産主義グループの共同行動、在日朝鮮人団体の共同行動は事件をめぐって成立していたが、事件以後にはいくつかの段階で統一と分裂を繰り返していく。それでも関東大震災やその後の虐殺事件などをめぐっては再び共同行動は表れる。朝鮮人の民族問題をめぐっての共同行動であれば成立するのか否かを確認していく必要がある。

・日朝労働者連帯の課題は事件を契機に「合法」「非合法」の両側面で浮上するが、社会運動団体・日本共産党の動向とも関連して「連帯」の関係性は変容していくため、その関係性を段階別に明らかにする課題がある。